

神奈川工科大学 3つのポリシー

第2版

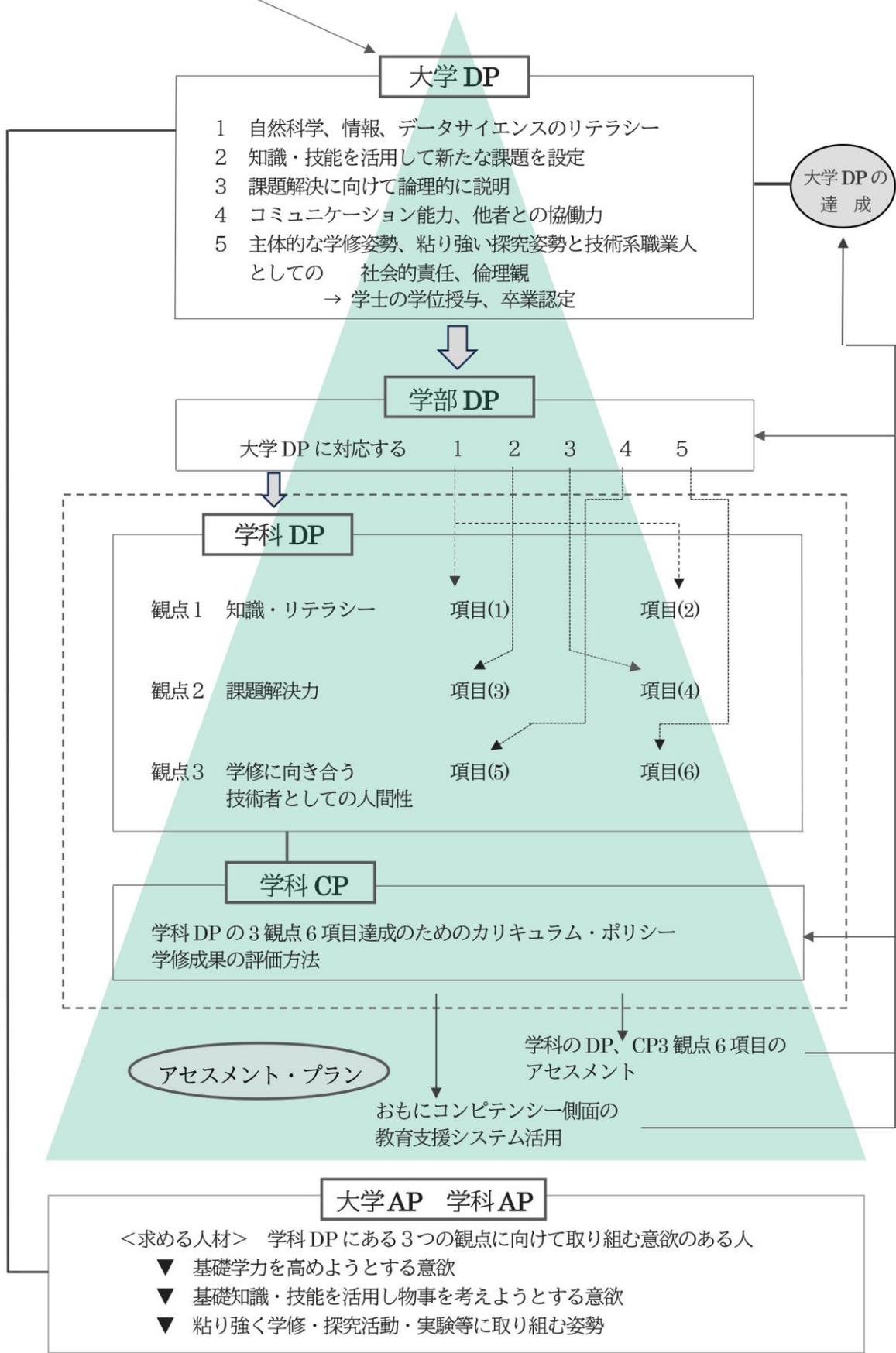
神奈川工科大学
3つのポリシー運営委員会

目 次

I	3つのポリシー改訂の趣旨	1
1	はじめに	1
2	学部・学科再編に伴う3つのポリシー策定の方針	2
(1)	3つのポリシー改訂の背景	2
(2)	DP、CP作成方針	2
(3)	学科DPは学習指導要領における観点別評価の手法を援用	3
(4)	AP作成方針	3
II	神奈川工科大学3つのポリシー	4
1	DP(卒業認定・学位授与の方針)	4
(1)	大学DP	4
(2)	学部DP	4
(3)	学科DP	7
2	CP(教育課程編成・実施の方針)	13
3	AP(入学者受入の方針)	29
(1)	大学AP	29
(2)	学科AP	30
III	3つのポリシーアセスメント・プラン	36
	あとがき	38
【資料】		39
	神奈川工科大学 DP CP	
	神奈川工科大学 AP	

教育目的

『考え、行動する人材の育成』 - 社会で活躍できる人づくり -



I 3つのポリシー改訂の趣旨

1 はじめに

3つのポリシーの策定・公開に係る答申や報告書として、さしあたり下記の abc は必須である。その上で、教育目的等にある本学の工学系大学としての特色を生かしたポリシーの策定が求められる。

- a 「学士課程答申」 （「学士課程教育の構築に向けて」 2008.12 中央教育審議会）
- b 『卒業認定・学位授与の方針』（ディプロマ・ポリシー）、『教育課程編成・実施の方針』（カリキュラム・ポリシー）及び『入学者受入れの方針』（アドミッション・ポリシー）の作成及び運用に関するガイドライン」（2016.3 中央教育審議会 以下「3つのポリシーガイドライン」とする）
- c 「高大接続システム改革会議『最終報告』」（2016.3 高大接続システム改革会議）

このうち、bの「3つのポリシーガイドライン」には3つのポリシーが次のように定義されている。

1 ディプロマ・ポリシー（DP）

各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標となるもの

2 カリキュラム・ポリシー（CP）

ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針

3 アドミッション・ポリシー（AP）

各大学、学部・学科等の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果（「学力の3要素」についてどのような成果を求めるか）を示すもの

本学においては2017年3月の学校教育法施行規則改正を受け、『平成29年度 大学・学部・学科、大学院研究科・専攻 教育目的 3つのポリシー』を刊行し、大学・学部・学科・大学院の3つのポリシーを公開した。

2024年の学部・学科再編は、クォーター制とセメスター制の併用、100分授業の導入等と相俟って、本学の教育課程上エポックメイキングとなる教育施策である。その中であって3つのポリシーは教学マネジメントの基軸であり、その改訂は本学の教育改革の一翼を担い、根幹をなすものである。

学部・学科再編、教育改革の実施は、3つのポリシーを一から策定する上での好機であり、3つのポリシー運営委員会では、新設・再編の学科のみならず、従前からの学科についても3つのポリシーを作成することとし、2022年9月、ワーキンググループで検討を開始した。

2 学部・学科再編に伴う3つのポリシー策定の方針

(1) 3つのポリシー改訂の背景

学位プログラムの考え方では学修成果の定量化が求められ、この定量化を進め得る3つのポリシーが必要である。文部科学省により、「3つのポリシーに基づく大学教育の質的転換が認証評価で重視されることが第3期認証評価制度の基本的な考え方」として提示され（「認証評価制度の改善に向けた具体的方策について」2016.1）、さらに「認証評価機関は3つのポリシーと照らし合わせて、大学が学生の学修成果をどのように把握・評価しているかという点について評価を行う」（中教審 2016.5）とあり、文科省の言うアセスメント・プラン（プランは大学全体レベル、教育プログラムレベル、授業レベルという階層をもつ）に言及されていることが留意点となる。3つのポリシーを策定する上でアセスメント・プランをも視野に入れて検討することとなった。

また、学部・学科再編にあわせた改訂であり、新学科は言う迄もなく、既存学科についても改訂することから、改訂にあたっては最初に大学全体のディプロマ・ポリシーに着手し、次いで大学全体のディプロマ・ポリシーをもとに学部、学科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを検討していくという上層から下層への展開とした。

周知のとおり、3つのポリシーは3ポリと記されることもある。また、ディプロマ・ポリシーは卒業認定・学位授与の方針-DPと記され、カリキュラム・ポリシーは教育課程編成・実施の方針-CP、アドミッション・ポリシーは入学者受入れの方針-APと表記される。以下本稿では、原則「3つのポリシー」、「DP」「CP」「AP」とする。

(2) DP、CP作成方針

学部・学科再編にともない「3つのポリシーガイドライン」に立ちかえり、3つのポリシーに基づくPDCAサイクルによる点検、評価の起点となるようなDPおよびCPを作成することとした。

その際、大学全体のDP（以下「大学DP」）を、大学でどういうことができるようになったから学位を授与し卒業を認定すると大きく括り、学部DPは学部の属する学科のDPをまとめたもの、学科DPはより具体的な表現とし、前述のとおり、大学-学部-学科という階層をもつピラミッド型の構造とした。またCPについては、DP達成の教育課程、教育内容等を記すことから、授業に直結する学科の階層で作成することとした。

なおアセスメントについては、DPがピラミッド型の構造であることから、学科DPについてアセスメントを行うことにより学部DPさらに大学DPのアセスメントが可能となるようにした。

その際、とくにコンピテンシー側面について、教育支援業者のシステムを活用することを視野に入れて学科DPの作成にあたることとした。ディプロマ・サプリメントの作成において、本学学生の強みや弱みを他学生と比較できることなどから、教育支援業者のシステムの活用が有為であると考えたからである。

(3) 学科 DP は学習指導要領における観点別評価の手法を援用

本学3つのポリシー改訂にあたり他学の3つのポリシーをみると、高等学校学習指導要領に基づく教科指導の評価方法を援用しているものが多くある。3つのポリシー作成が義務付けられたころ、高大接続改革の一環として高校教育改革と大学教育改革が同時に進行しており、後期中等教育との連続性がより重視されていたことなども背景にあるのであろう。

2004年に国立教育政策研究所から『評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料』が刊行された。「知識・理解」「思考・判断」「技能・表現」「関心・意欲・態度」の4観点、および観点別評価の際の評価規準が示された最初である。この評価規準では「……ができる」という文体が取り入れられ、到達度指標としてのちにルーブリックと呼ばれるようになった到達度指標、およびそのための授業改善例が収められた刊行物である。これは学習指導要領に基づく評価法であり、前述のとおり本来は教科・科目の評価ツールであるが、3つのポリシー作成に援用する大学が多い。

2007年に学校教育法が改正され、その第30条第2項で学力の3要素を、基礎的・基本的な知識・技能の習得、それらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度と定義づけられた。高校では2022年から新たな高等学校学習指導要領が実施されており、この改定から学習指導要領に基づく観点が4観点から新たに3観点到改められた。学習指導要領は概ね10年ごとに改訂されることを踏まえると学習指導要領1周期分遅きに失した感はあるが、学校教育法に示された学力の3要素が新たな観点として登場したことになる。新たな3観点とは「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」である。

大学全体のDPに相応しい観点を設定することで自ずと学部・学科のDP記述内容が決まることから、観点の設定に重点を置き検討を進めた。その際、本学の教育目的にある「考え」と「行動」はリテラシー側面を主としつつコンピテンシー要素を併せ持ち、「社会で活躍」にはコンピテンシー側面が強く現れていることを踏まえ、工学系の大学として相応しい観点名として、学科のDPの観点名を「知識・リテラシー」「課題解決力」「学修に向き合う力・技術者としての人間性」とした。

(4) AP 作成方針

「3つのポリシーガイドライン」を踏まえ、3つのポリシーに基づく入学者選抜の起点となるAPの作成を図った。学科のDP、CPの3つの観点は、高校段階における学力の3要素と対応するものであるから、基本的な構造は、本学卒業時にDP、CPを満たそうとするものを求めるという文体となる。その際、入学した学生の力を高める＝入学した学生を育てる大学であることを高校生、ステークホルダーに示すことを目的として、高校段階までの知識や思考力についての「基礎力を有している」というような表記はとらずに「意欲のある」という表記となっている。なお作成階層は大学と学科とした。

また、求める人材や、総合型選抜・学校推薦型選抜・一般選抜という選抜の方法というAPの趣旨に則り、選抜の詳細については学校案内やホームページ等の別媒体に委ね、APに記載しないこととした。

II 神奈川工科大学 3つのポリシー

本学の教育目的である『「考え、行動する人材の育成」－ 社会で活躍できる人づくり－』を基軸とし、さらに建学の理念にある「広く勉学意欲旺盛な学生を集め、豊かな教養と幅広い視野を持ち、創造性に富んだ技術者を育て」を念頭において3つのポリシーを作成した。

1 DP（卒業認定・学位授与の方針）

I-2-(2) に掲げた作成方針に基づき、大学 DP、学部 DP、学科 DP を作成した。

(1) 大学 DP

工学系・情報系・健康医療系の技術系職業人としての基礎知識である自然科学、情報、データサイエンスのリテラシーを身に付けている。また、体系化した知識・技能を活用して新たな課題を設定し、広い視野のもとで課題解決に向けて論理的に説明できる能力、社会人として活躍するためのコミュニケーション能力や他者との協働力を身に付けている。さらに、主体的な学修姿勢を持ち、粘り強い探究姿勢と技能向上に努める姿勢を身に付けている。これらの能力をそなえ、技術系職業人としての社会的責任や倫理観を理解している者に学士の学位を授与し、卒業を認定する。

大学 DP は I-2-(2) の作成方針のとおり総括的な一文とした。教育目的にある「考え、行動する」については「自然科学、情報、データサイエンスのリテラシーを身に付けている」、「体系化した知識・技能を活用して新たな課題を設定し、広い視野のもとで課題解決に向けて論理的に説明できる能力」と記されている。教育目的全体は「社会で活躍できる」という語で括られ、「コミュニケーション能力や他者との協働力」、「粘り強い探究姿勢と技能向上に努める姿勢」から、より良い成果を導き出すというコンピテンシー側面を DP に記した。

(2) 学部 DP

学部の DP については、工学部、情報学部、健康医療科学部それぞれの学部の特性に適合させつつ、大学 DP の記述を踏まえて3つの学部ともに5つの箇条書きで記した。

＜大学 DP＞	＜学部 DP＞
1 自然科学、情報、データサイエンスのリテラシーを身に付けている	学部 1
2 知識・技能を活用して新たな課題を設定できる能力	学部 2
3 課題解決に向けて論理的に説明できる	学部 3
4 社会人として活躍するためのコミュニケーション能力や他者との協働力を身に付けている	学部 4
5 主体的な学修姿勢を持ち、粘り強い探究姿勢と技能向上に努める姿勢を身に付けている。 これらの能力をそなえ、技術系職業人としての社会的責任や倫理観を理解している	学部 5

工学部 DP

- 1 工学に関する自然科学の基礎知識、技術者の基盤としての数学、物理、情報、データサイエンスのリテラシー等を身に付けている。
- 2 工学技術者としての基礎知識を活用し多面的に物ごとを考える能力、制約のある条件のもとで計画した目標を実現する創造力を身に付けている。
- 3 獲得した知識を体系化して理解し、その知識や技術をもとに論理的な課題設定能力と課題解決能力、論理的で明確な説明能力を身に付けている。
- 4 工学技術者として、かつ社会人として活躍するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、また他者との協働力を身に付けている。
- 5 主体的な学修姿勢を持ち、粘り強く探究する姿勢を身に付けており、工学技術者としての社会的責任を理解し、かつ技術者としての倫理観を身に付けている。

工学部の DP として、工学部でどのような力を身に付けた者に学位を授与し卒業を認定するかが示されている。学生にとっては学修成果の目標となるものでもある。1、2、3は身に付けるリテラシー側面で、そのうち、2の「多面的に物ごとを考える能力」、3の「論理的で明確な説明能力」にはコンピテンシー側面が含まれる。教育目的にある「社会で活躍できる」ためには、知識・技能・思考とともに、それらの能力をより良い成果に結びつけていくというコンピテンシーを高める必要がある。4、5にコンピテンシー側面を記し、さらに本学の学生に大いに期待できる「粘り強く探究する姿勢」を、工学技術者としての社会的責任、倫理観と関連付けて記されている。

情報学部 DP

- 1 情報技術（または情報工学、または情報）に関する自然科学の基礎知識、技術者の基盤としての数学、物理、情報、データサイエンスのリテラシー等を身に付けている。
- 2 情報技術者としての基礎知識を活用し多面的に物ごとを考える能力、制約のある条件のもとで計画した目標を実現する創造力を身に付けている。
- 3 獲得した知識を体系化して理解し、その知識や技術をもとに論理的な課題設定能力と課題解決能力、論理的で明確な説明能力を身に付けている。
- 4 情報技術者として、かつ社会人として活躍するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、また他者との協働力を身に付けている。
- 5 主体的な学修姿勢を持ち、粘り強く探究する姿勢を身に付けており、情報技術者としての社会的責任を理解し、かつ技術者としての倫理観を身に付けている。

情報学部の DP として、情報学部でどのような力を身に付けた者に学位を授与し卒業を認定するかを示されている。学生にとっては学修成果の目標となるものでもある。1、2、3は身に付けるリテラシー側面で、そのうち、2の「多面的に物ごとを考える能力」、3の「論理的で明確な説明能力」にはコンピテンシー側面が含まれる。教育目的にある「社会で活躍できる」ためには、知識・技能・思考とともに、それらの能力をより良い成果に結びつけていくというコンピテンシーを高める必要がある。4、5にコンピテンシー側面を記し、さらに本学の学生に大いに期待できる「粘り強く探究する姿勢」を、情報技術者としての社会的責任、倫理観と関連付けて記されている。

健康医療科学部 DP

- 1 医療に関する自然科学の基礎知識、看護学、栄養学、臨床工学の各分野の職業人の基盤としての専門医療分野のリテラシー等を身に付けている。
- 2 各分野の職業人としての基礎知識を活用し多面的に物ごとを考える能力、人々の健康に関連した問題・課題を発見・解決する能力を身に付けている。
- 3 獲得した知識を体系化して理解し、その知識や技術をもとに論理的な課題設定能力と課題解決能力、論理的で明確な説明能力を身に付けている。
- 4 各分野の職業人として活躍するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、また他の専門職との協働力を身に付けている。
- 5 主体的な学修姿勢を持ち、粘り強く探究する姿勢を身に付けており、各分野の職業人としての社会的責任を理解し、かつ各分野の職業人としての倫理観を身に付けている。

健康医療科学部の DP として、健康医療科学部でどのような力を身に付けた者に学位を授与し卒業を認定するかを示されている。学生にとっては学修成果の目標となるものでもある。1、2、3は身に付けるリテラシー側面で、そのうち、2の「多面的に物ごとを考える能力」、3の「論理的で明確な説明能力」にはコンピテンシー側面が含まれる。教育目的にある「社会で活躍できる」ためには、知識・技能・思考とともに、それらの能力をより良い成果に結びつけていくというコンピテンシーを高める必要がある。4、5にコンピテンシー側面を記し、さらに本学の学生に大いに期待できる「粘り強く探究する姿勢」を、健康医療科学に携わる職業人・技師としての社会的責任、倫理観と関連付けて記されている。

(3) 学科 DP

学科 DP の作成にあたっては、I-2-(3)に記したとおり、大学 DP、学部 DP の内容を「1 知識・リテラシー」、「2 課題解決力」、「3 学修に向き合う力、技術者・職業人としての人間性」の3つの観点で記述する方法をとった。さらに各々の観点について2項目に区分し(1)から(6)の項目を設定した。

例えば、大学 DP にある「自然科学、情報、データサイエンスのリテラシーを身に付けている」は学部 DP の1（「自然科学の基礎知識、技術者の基盤としての数学、物理、情報、データサイエンスのリテラシー等を身に付けている」となり、この学部 DP の1が学科 DP の項目(1)(2)となり、項目(1)(2)は学科 DP の観点「1 知識・リテラシー」となる。学部 DP と学科 DP の観点および項目の関係は次のとおり。

大学 DP	学部 DP	学科 DP の項目	学科 DP の観点
1	学部1	(1) (2)	1 知識・リテラシー (第1観点)
2	学部2	(3)	2 課題解決力 (第2観点)
3	学部3	(4)	
4	学部4	(5)	3 学修に向き合う力、技術者・職業人としての人間性 (第3観点)
5	学部5	(6)	

なお学科 DP の3観点と(1)～(6)の項目の内容概略は次のとおり。

第1観点	(1) 学科専門分野の基本知識、自然科学の知識や基礎技能を理解できる。 (2) 学科専門分野の技術者・職業人としてのリテラシーを身に付けている。
第2観点	(3) 基礎知識・技能を活用した思考力、課題発見力を持つ。 (4) 知識を体系化し、課題解決力、説明能力を身に付けている。
第3観点	(5) コミュニケーション能力、協働する力を身に付けている。 (6) 主体的な学修姿勢を持ち、技術者・職業人としての社会的責任を身に付けている。

3つのポリシー運営委員会では、機械工学科と応用化学生物学科の教員が3つのポリシー運営委員会ワーキンググループ構成員であったことから、はじめに機械工学科と応用化学生物学科の学科 DP 試案を作成した。この試案は各学科の担当者に示されたのち、同様式で各学科 DP 案が作成された。3つのポリシー運営委員会から提出されたこの原案は教育改革推進会議で検討されて字句等修正の上で長期計画委員会で審議された。その際、長期計画委員会では、軽微な修正は3つのポリシー運営委員会で修正することが認められた。さらに教授会に報告され学科 DP が成案となった。

なお学科 DP に先行して大学 DP、学部の DP が同様の過程を経て成案となり、このあとに記載となる CP、AP についても同様である。

【工学部 3 学科の学科 DP】

機械工学科 DP

1 知識・リテラシー	<p>(1) 機械工学と機械技術の理解に必要な物理、数学の基礎学力を持ち、関連する自然科学の知識や基礎技能を体系的に理解できる。</p> <p>(2) 機械工学の技術者として必要な情報やデータサイエンスのリテラシーを身に付けている。</p>
2 課題解決力	<p>(3) 基礎知識・技能を活用し、多面的で多角的な視点から物事を考え、機械工学や機械技術に関する問題を発見し、解決および新たな価値づくりができる。</p> <p>(4) 機械工学に関する知識を体系化し、発見した課題についての分析的な問題解決能力及び論理的な説明能力を身に付けている。</p>
3 学修に向き合う力 工学技術者としての人間性	<p>(5) 技術者及び社会人として活躍するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有し、他者と協働して目標を実現する力を身に付けている。</p> <p>(6) 粘り強く学修・探究活動・実験等に取り組む姿勢を身に付けている。また、技術者としての社会的責任を理解し、倫理観を身に付けている。</p>

電気電子情報工学科 DP

1 知識・リテラシー	<p>(1) 電気電子情報工学と情報エレクトロニクス技術の理解に必要な物理、数学の基礎学力を持ち、関連する自然科学の知識や基礎技能を体系的に理解できる。</p> <p>(2) 電気電子情報工学の技術者、情報エレクトロニクス技術者として必要な情報、データサイエンスのリテラシーを身に付けている。</p>
2 課題解決力	<p>(3) 基礎知識・技能を活用し、多面的で多角的な視点から物事を考え、電気電子情報工学、情報エレクトロニクス技術に関する問題点を発見し、解決および新たな価値づくりができる。</p> <p>(4) 電気電子情報工学、情報エレクトロニクス技術に関する基礎知識を体系化し、発見した課題について専門知識を活用して問題を解決し、論理的に説明する能力を身に付けている。</p>
3 学修に向き合う力 工学技術者としての人間性	<p>(5) 電気電子情報工学技術者あるいは情報エレクトロニクス技術者、社会人として活躍するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、また他者との協働力を身に付けている。</p> <p>(6) 主体的に学修・探究活動・実験等に取り組む姿勢を身に付けている。また、工学技術者の社会的責任を理解し、倫理観を身に付けている。</p>

<p>1 知識・リテラシー</p>	<p>(1) 応用化学と応用生物および生命科学に必要な化学、生物の基礎学力を持ち、関連する自然科学の知識や基礎技術を体系的に理解できる。</p> <p>(2) 技術者として必要な情報技術、データサイエンスのリテラシーを身に付けている。</p>
<p>2 課題解決力</p>	<p>(3) 基礎知識・技能を活用し、多面的で多角的な視点から物事を考え、化学、生物、生命科学に関する課題を発見し解決するとともに、新たな価値形成を見出すことができる。</p> <p>(4) 化学や生物の専門分野に関する知識を体系化し、論理的にかつ発展的に導出した応用課題や目的に対して、多面的な視野のもとで解決を行い、成果を論理的に説明する能力を身に付けている。</p>
<p>3 学修に向き合う力 工学技術者としての 人間性</p>	<p>(5) 化学・生物系技術者及び社会人として活躍するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有し、他者と協働して目標を実現する力を身に付けている。</p> <p>(6) 主体的な学修・探究活動・実験実習による検証等に取り組む姿勢を身に付けている。また、技術者としての社会的責任を理解し、技術者としての倫理観を身に付けている。</p>

【情報学部 4 学科の学科 DP】

情報工学科 DP

1 知識・リテラシー	<p>(1) 情報工学の理解に必要な情報、数理の基礎学力を持ち、関連する自然科学の知識や基礎技術を体系的に理解できる。</p> <p>(2) 技術者として必要な情報技術、データサイエンスのリテラシーを身に付けている。</p>
2 課題解決力	<p>(3) 基礎知識と技能を活用し、多面的な視点から物事を考え、情報工学、情報技術に関する課題を発見し解決するとともに、新たな価値形成を見出すことができる。</p> <p>(4) 情報工学分野に関する知識を体系化し、他者との考察をもとに論理的にかつ発展的に導出した応用課題や目標に対して、多面的な視野のもとで解決を行い、成果を論理的に説明する能力を身に付けている。</p>
3 学修に向き合う力 情報技術者としての 人間性	<p>(5) 情報技術者及び社会人として活躍するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有し、他者と協働して目標を実現する力を身に付けている。</p> <p>(6) 主体的な学修・探究活動・実験実習による検証等に取り組む姿勢を身に付けている。また、情報技術者としての社会的責任を理解し、情報技術者としての倫理観を身に付けている。</p>

情報ネットワーク・コミュニケーション学科 DP

1 知識・リテラシー	<p>(1) 情報ネットワークの理解に必要な情報、数理の基礎学力を持ち、関連する自然科学の知識や基礎技術を体系的に理解できる。</p> <p>(2) 情報ネットワーク技術者として必要な情報技術、データサイエンスのリテラシーを身に付けている。</p>
2 課題解決力	<p>(3) 基礎知識と技能を活用し、多面的な視点から物事を考え、情報ネットワーク、情報技術に関する課題を発見し解決するとともに、新たな価値形成を見出すことができる。</p> <p>(4) 情報ネットワーク分野に関する知識を体系化し、他者との考察をもとに論理的にかつ発展的に導出した応用課題や目標に対して、多面的な視野のもとで解決を行い、成果を論理的に説明する能力を身に付けている。</p>
3 学修に向き合う力 情報技術者としての 人間性	<p>(5) 情報ネットワーク技術者及び社会人として活躍するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有し、他者と協働して目標を実現する力を身に付けている。</p> <p>(6) 主体的な学修・探究活動・実験実習による検証等に取り組む姿勢を身に付けている。また、情報ネットワーク技術者としての社会的責任を理解し、情報ネットワーク技術者としての倫理観を身に付けている。</p>

情報メディア学科 DP

1 知識・リテラシー	<p>(1) 情報メディアの理解に必要な情報、数理の基礎学力を持ち、関連する自然科学や工学の知識や基礎技術を体系的に理解できる。</p> <p>(2) 情報メディア技術者として必要な情報技術、データサイエンスのリテラシーを身に付けている。</p>
2 課題解決力	<p>(3) 基礎知識と技能を活用し、多面的な視点から物事を考え、情報メディア、コンテンツ制作技術に関する課題を発見し解決するとともに、新たな価値形成を見出すことができる。</p> <p>(4) 情報メディアやコンテンツ制作の分野に関する知識を体系化し、他者との考察をもとに論理的にかつ発展的に導出した応用課題や目標に対して、多面的な視野のもとで解決を行い、成果を論理的に説明する能力を身に付けている。</p>
3 学修に向き合う力 情報技術者としての人間性	<p>(5) 情報メディア技術者やコンテンツ制作者及び社会人として活躍するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有し、他者と協働して目標を実現する力を身に付けている。</p> <p>(6) 主体的な学修・探究活動・実験実習による検証等に取り組む姿勢を身に付けている。また、情報メディア技術者やコンテンツ制作者としての社会的責任を理解し、情報メディア技術者やコンテンツ制作者としての倫理観を身に付けている。</p>

情報システム学科 DP

1 知識・リテラシー	<p>(1) 情報システムの理解に必要な情報、数理の基礎学力を持ち、関連する自然科学や工学の知識や基礎技術を体系的に理解できる。</p> <p>(2) 情報システム技術者として必要な情報技術、データサイエンスのリテラシーを身に付けている。</p>
2 課題解決力	<p>(3) 基礎知識と技能を活用し、多面的な視点から物事を考え、情報システム、情報技術に関する課題を発見し解決するとともに、新たな価値形成を見出すことができる。</p> <p>(4) 情報システム分野に関する知識を体系化し、他者との考察をもとに論理的にかつ発展的に導出した応用課題や目標に対して、多面的な視野のもとで解決を行い、成果を論理的に説明する能力を身に付けている。</p>
3 学修に向き合う力 情報技術者としての人間性	<p>(5) 情報技術者及び社会人として活躍するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有し、他者と協働して目標を実現する力を身に付けている。</p> <p>(6) 主体的な学修・探究活動・実験実習による検証等に取り組む姿勢を身に付けている。また、情報技術者としての社会的責任を理解し、情報技術者としての倫理観を身に付けている。</p>

【健康医療科学部 3 学科の学科 DP】

看護学科 DP

1 知識・リテラシー	<p>(1) 看護専門職として、その専門分野における基本的な知識・技能を体系的に理解している。</p> <p>(2) 看護専門職の素養としての理数・情報分野の基礎知識とリテラシーを理解している。また、人間や社会、多様な文化に関する基礎知識を修得している。</p>
2 課題解決力	<p>(3) 看護学分野に関する基礎的な知識と基本的な技術を応用・発展させて、看護学の進歩に即応しつつ看護や人々の健康に関連した問題を発見・解決して、新たな価値を生み出すことができる。</p> <p>(4) 看護や人々の健康に関連した様々な現実的課題に対して、どのような状況下においても専門知識・技術を活用し、専門職としての責任を自覚して、課題を解決することができる。</p>
3 学修に向き合う力 看護専門職としての人間性	<p>(5) 看護専門職として主体的、自律的に活躍するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、また他の保健医療福祉職と連携・協働する力を身に付けている。</p> <p>(6) 看護専門職として期待されている自分の役割を把握し、行動することができる。また、看護専門職としての職業倫理を理解し実践することができる。</p>

管理栄養学科 DP

1 知識・リテラシー	<p>(1) 管理栄養士・栄養士に必要な基礎学力を持ち、その専門分野における知識や技能を体系的に理解できる。</p> <p>(2) 管理栄養士・栄養士として必要な情報、およびデータサイエンスの基礎知識とリテラシーを身に付けている。</p>
2 課題解決力	<p>(3) 基礎知識・技能を活用し、多面的で多角的な視点から物事を考え、栄養や健康に関する問題を発見し、解決および新たな価値づくりができる。</p> <p>(4) 栄養や健康に関する知識を体系化し、発見した課題についての分析的な問題解決能力、論理的な説明能力を身に付けている。</p>
3 学修に向き合う力 栄養の専門職としての人間性	<p>(5) 管理栄養士・栄養士として活躍するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、また他の専門職との協働力を身に付けている。</p> <p>(6) 主体的な学修・探究活動・実験実習による検証等に取り組む姿勢を身に付けている。また、管理栄養士・栄養士としての社会的責任を理解し、管理栄養士・栄養士としての倫理観を身に付けている。</p>

1 知識・リテラシー	(1) 臨床工学の理解に必要な物理・化学・生物・数学の基礎学力を持ち、医療と関連工学の基礎知識や技能を体系的に理解できる。 (2) 臨床工学技士として必要な情報、データサイエンスのリテラシーを身に付けている。
2 課題解決力	(3) 基礎知識・技能を活用し、多面的で多角的な視点から物事を考え、医療現場における問題を発見・解決し、臨床工学技士の新たな役割を見出すことができる。 (4) 臨床工学に関する専門知識と技術を体系化し、医療現場における幅広い課題についての分析的な問題解決能力、論理的な説明能力を身に付けている。
3 学修に向き合う力 臨床工学技士としての人間性	(5) 臨床工学技士として活躍するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身に付けている。また、チーム医療の一員として他の医療専門職との協働力を身に付けている。 (6) 粘り強く学修・探究活動・実験等に取り組む姿勢を身に付けている。また、臨床工学技士の社会的責任を理解し、臨床工学技士としての倫理観を身に付けている。

2 CP（教育課程編成・実施の方針）

I-2-2(2) に掲げた作成方針に記したとおり、DP 達成に向けた教育課程、教育内容と方法、授業、評価法等を示すポリシーであることから、授業に直結する学科階層で CP を作成した。記載は「3つのポリシーガイドライン」に従い、学科 DP と対応する (1)から(6)と、評価方法となる。その際、DP は「何ができるようになったか」を明示し、その達成により学位を授与し卒業を認定するというポリシーゆえに、(1)から(6)の文末は「……できる」、「……を身に付けている」という表記となるが、CP は DP 達成に向けたポリシーであるので「……を学ぶ」、「……を理解する」、「……を身に付ける」という表記となる。

CP は DP 達成のためのポリシーであり、卒業に必要な科目設定、コア科目、さらに科目の履修順を決定する側面をも持つものである。学生にとっては、CP により何をどのように学び、どのようなことができるようになるかの道標となるものである。いわば CP は科目名のないカリキュラムツリーだと言えよう。

記載は、学科 DP に対応する (1)から(6)と、観点ごとの学修成果の評価方法とした。

学科 DP 本文と、対応する学科 CP 本文を一体化した記載については、巻末の資料をご覧ください。

機械工学科 CP

<p>1 知識・リテラシー</p>	<p>(1) 専門基礎導入科目の講義と演習を通して、機械工学と機械技術の理解に必要な物理と数学の基礎学力を修得する。この基礎学力とは、計算のみならず、数理の考え方を身に付けることで、身の回りの事象との関連性を論理的に理解することをいう。以上を踏まえて、専門基礎科目（4力学：材料力学、流れ学、熱力学、機械力学と加工学）を修得するとともに、専門科目の実験や設計・プロジェクト科目を通して、関連する自然科学の知識や基礎技能を体系的に理解する。</p> <p>(2) 共通基盤科目の数理情報系分野における ICT（情報通信技術）関連科目を初年次に学修した上で、データサイエンスにおけるリテラシーを身に付ける。さらに、プログラミング科目においては基礎的なプログラミングを学びながら論理的な思考力を修得する。特に、自動車システム工学コースや環境・エネルギー工学コース、そして航空・宇宙分野の科目については、必要なデータ処理やプログラミングを通して、現代の機械工学技術者としての実践的な技能を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】共通基盤教育科目、専門基礎導入科目、そして専門基礎科目における試験、小テスト、レポート、演習で評価する。</p>
<p>2 課題解決力</p>	<p>(3) 専門科目の設計開発・プロジェクト科目では、多面的で多角的な視点から物事を考え、機械工学や機械技術に関する問題を解決する過程を学ぶ。設計・製図科目ではコンピュータを利用しながらものづくりに必要な技術を学ぶ。実験科目ではデータを計測・解析して報告書をまとめる過程で、様々な事象と講義で得た知識を関連付けて考えることができる能力を身に付ける。学ぶ領域は、機械工学全般、自動車システム工学、環境・エネルギー工学、航空・宇宙分野がある。また、教員養成のプログラムもある。</p> <p>(4) 主に3年次以降のプロジェクト・ユニット科目を通して、機械工学に関する4力学や機械要素の原理や機能の知識を体系化し、発見した課題についての分析的な問題解決能力を修得する。さらに、卒業研究では研究計画の立案や必要な調査を主体的に行い、そして、報告書および卒業論文の作成や発表を通して、第三者にその内容を論理的かつわかりやすく伝える能力を身に付ける。</p>

	<p>【学修成果の評価方法】プロジェクト科目やユニット科目では、課題達成状況やその到達プロセス、プレゼンテーションなどにより多面的に評価する。</p>
3 学修に向き合う工学技術者としての人間性	<p>(5) 社会人として必要な教養は共通基盤科目全般で学び、特に機械工学に関する技術者像は倫理系科目やキャリア系科目などを通して学ぶ。その上で、社会で役立つ技術者として必要な能力を理解するとともに、プロジェクト科目やユニット科目での実践を通して、他者と協働してコミュニケーションを取りながら課題を解決する能力を身に付ける。教員養成の分野では特にコミュニケーション能力が重要となるため、関連する科目を学ぶ。</p> <p>(6) 機械や機械システムの設計科目では、機械工学で学ぶ力学の応用やコンピュータの利用だけでなく、継続的に粘り強い取り組みの重要性を理解する。将来の技術者としての倫理観は共通基盤の倫理系の科目で学ぶとともに、卒業研究における総合的な学びの中で身に付ける。さらに、研究活動を行う能動的な態度を活かしながら、工学技術者として必要な探究力を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】共通基盤科目では、試験、小テストやレポートで内容の理解度を評価する。卒業研究では、活動状況（計画立案、遂行状況、コミュニケーション等）や卒業論文のまとめ方、そして複数の教員による発表審査結果を総合的にルーブリック等で評価する。</p>

電気電子情報工学科 CP

1 知識・リテラシー	<p>(1) 専門基礎導入科目の講義と演習を通して、電気電子情報工学と情報エレクトロニクス技術の理解に必要な物理と数学の基礎学力を修得する。この基礎学力とは、計算のみならず、数理の考え方を身に付けることで、身の回りの事象との関連性を論理的に理解することをいう。以上を踏まえて、専門基礎科目（基礎電気回路、基礎電子回路、電気磁気学、プログラミング）を修得するとともに、専門科目の実験や設計・プロジェクト科目を通して、関連する自然科学の知識や基礎技能を体系的に理解する。</p> <p>(2) 共通基盤科目の数理情報系分野における ICT（情報通信技術）関連科目を初年次に学修した上で、データサイエンスにおけるリテラシーを身に付ける。さらに、プログラミング科目においては基礎的なプログラミングを学びながら論理的な思考力を修得する。電気電子情報工学と情報エレクトロニクスの科目については、必要なデータ処理やプログラミングを通し</p>
------------	--

	<p>て、現代の電気電子情報技術者および情報エレクトロニクス技術者としての実践的な技能を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】共通基盤教育科目、専門基礎導入科目、そして専門基礎科目における試験、小テスト、レポート、演習で評価する。</p>
<p>2 課題解決力</p>	<p>(3) 専門科目の設計開発・プロジェクト科目では、多面的で多角的な視点から物事を考え、電気電子情報工学と情報エレクトロニクス技術に関する問題を解決する過程を学ぶ。設計・製図科目ではコンピュータを利用しながらものづくりに必要な技術を学ぶ。実験科目ではデータを計測・解析して報告書をまとめる過程で、様々な事象と講義で得た知識を関連付けて考えることができる能力を身に付ける。学ぶ領域は、電気電子情報工学、電気主任技術者養成、情報エレクトロニクス、実践的電気技術者養成(国家資格取得)の各分野から選択する。</p> <p>(4) ユニット科目やプロジェクト科目を通して、電気電子情報工学と情報エレクトロニクスにおける専門基礎科目の知識を体系化し、発見した課題についての分析的な問題解決能力を修得する。さらに、卒業研究・卒業制作プロジェクトでは研究計画の立案や必要な調査を主体的に行い、そして、報告書の作成や発表を通して、第三者にその内容を論理的かつわかりやすく伝える能力を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】ユニット科目やプロジェクト科目では、課題達成状況やその到達プロセス、プレゼンテーションなどにより多面的に評価する。</p>
<p>3 学修に向き合う工学技術者としての人間性</p>	<p>(5) 社会人として必要な教養は共通基盤科目全般で学び、特に電気電子情報工学と情報エレクトロニクスに関する技術者像は倫理系科目やキャリア系科目などを通して学ぶ。その上で、社会で役立つ技術者として必要な能力を理解するとともに、ユニット科目やプロジェクト科目での実践を通して、他者と協働してコミュニケーションを取りながら課題を解決する能力を身に付ける。</p> <p>(6) ユニット科目・プロジェクト科目や卒業研究・卒業制作プロジェクトでは、電気電子情報工学と情報エレクトロニクスで学ぶ座学の応用やコンピュータの利用だけでなく、継続的に粘り強い取り組みの重要性を理解する。将来の技術者としての倫理観は共通基盤の倫理系の科目で学ぶとともに、卒業研究や卒業制作プロジェクトにおける総合的な学びの中で身に付ける。さらに、研究活動を行う能動的な態度を活かしながら、工学技術者として必要な探究力を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】共通基盤科目では、試験、小テストやレポートで内</p>

	容の理解度を評価する。卒業研究では、活動状況（計画立案、遂行状況、コミュニケーション等）や卒業論文のまとめ方、そして複数の教員による発表審査結果を総合的にルーブリック等で評価する。
--	--

応用化学生物学科 CP

1 知識・リテラシー	<p>(1) 専門基礎導入科目の「微分積分学 I-c」、専門基礎科目の「有機化学」や「分析化学」、専門応用科目などの講義や演習を通して、化学と生物の理解に必要な自然科学の知識を修得する。この基礎学力とは、化学や生物の知識のみならず、定量的な思考や、数理的な考え方を身に付けることで、身の回りの事象との関連性を論理的に理解することをいう。</p> <p>(2) 共通基盤科目の数理情報系分野における ICT（情報通信技術）関連科目を初年次に学修することで、データサイエンスにおけるリテラシーを身に付け、情報技術分野における基礎的なプログラミング力を修得する。また専門教育科目群における情報系科目において、化学と生物に関連したデータ処理やプログラミングなどの実践的な技能を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】それぞれの科目における試験、小テスト、レポート、演習で評価する。</p>
2 課題解決力	<p>(3) 専門教育科目では、多面的で多角的な視点から物事を考え、化学・生物分野における深い知識と専門分野間の有機的・総合的な理解を身に付ける。実験科目では、化学・生物分野における必要な実験技術を身に付け、データを定性的・定量的に解析・評価でき、さらには実験結果を講義で得た知識と関連付けて考えることができる能力を身に付ける。これらにより、多面的かつ多角的に物事を考え、新たな価値形成を見出す能力を身に付ける。</p> <p>(4) 主に 2 年次以降の専門教育科目において、またユニットプログラムや実験科目を通して、化学や生物の知識を体系的に理解し、発見した課題についての多面的かつ筋道だった問題解決能力を修得する。さらに、専門研究科目において、研究計画の立案・必要な調査・研究の遂行を主体的に行い、報告書の作成や発表を通して、第三者にその内容を論理的かつわかりやすく伝える能力を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】専門教育科目では、試験、演習で評価する。ユニットプログラムや実験科目では、課題達成状況やレポート類、プレゼンテーシ</p>

	<p>ョンなどにより多面的に評価する。</p>
<p>3 学修に向き合う力 工学技術者としての 人間性</p>	<p>(5) 社会人として必要な教養は共通基盤科目全般で学び、社会で役立つ技術者として必要な能力を理解するとともに、他者と協働してコミュニケーションを取りながら課題を解決する能力を身に付ける。以上を踏まえて、卒業研究では総合力を高め、社会で活躍するための能力を修得する。</p> <p>(6) 将来の技術者としての倫理観や技術者像を共通基盤の倫理系科目やキャリア系科目などを通して学ぶ。また、卒業研究では、総合的な学びの中で倫理観や技術者像を学ぶとともに、研究活動を行う能動的な態度を活かしながら、工学技術者として必要な探究力を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】共通基盤科目では、試験、小テストやレポートで内容の理解度を評価する。卒業研究では、活動状況（計画立案、遂行状況、コミュニケーション等）や卒業論文のまとめ方、そして複数の教員による発表審査結果を総合的に評価する。</p>

【情報学部4学科の学科 CP】

情報工学科 CP

<p>1 知識・リテラシー</p>	<p>(1) 専門基礎導入科目の講義と演習を通して、情報工学と情報技術の理解に必要な情報と数理の基礎学力を修得する。この基礎学力とは、計算のみならず、数理の考え方を身に付けることで、身の回りの事象との関連性を論理的に理解することをいう。以上を踏まえて、情報技術基礎導入科目群（学部共通）を修得するとともに、情報工学基礎ユニットを通して、関連する自然科学の知識や基礎技能を体系的に理解する。</p> <p>(2) 共通基盤科目の数理情報系分野における ICT（情報通信技術）関連科目を初年次に学修した上で、データサイエンスにおけるリテラシーを身に付ける。さらに、プログラミング科目においては基礎的なプログラミングを学びながら論理的な思考力を修得する。特に、学科固有の専門基礎科目については、必要なデータ処理やプログラミングを通して、現代の情報技術者としての実践的な技能を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】共通基盤教育科目、専門基礎導入科目、そして専門基礎科目における試験、小テスト、レポート、演習で評価する。</p>
-------------------	---

<p>2 課題解決力</p>	<p>(3) 専門科目のユニットプログラムでは、多面的で多角的な視点から物事を考え、情報工学や情報技術に関する問題を解決する過程を学ぶ。学科固有の専門科目ではコンピュータを利用しながらコンピュータシステムの構築に必要な技術を学ぶ。情報工学総合ユニットではソフトウェア開発やデータ分析を通して報告書をまとめる過程で、様々な事象と講義で得た知識を関連付けて考えることができる能力を身に付ける。学ぶ領域は、情報工学全般、コンピュータシステム、ソフトウェア開発の各分野から選択する。</p> <p>(4) 主に3年次以降のユニットプログラムを通して、情報工学に関するコンピュータシステムおよびソフトウェアの制御や機能の知識を体系化し、発見した課題についての分析的な問題解決能力を修得する。さらに、卒業研究では研究計画の立案や必要な調査を主体的に行い、そして、報告書の作成や発表を通して、第三者にその内容を論理的かつわかりやすく伝える能力を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ユニットプログラムでは、課題達成状況やその到達プロセス、プレゼンテーションなどにより多面的に評価する。</p>
<p>3 学修に向き合う力 情報技術者としての 人間性</p>	<p>(5) 社会人として必要な教養は共通基盤科目全般で学び、特に情報工学に関する技術者像は倫理系科目やキャリア系科目などを通して学ぶ。その上で、社会で役立つ技術者として必要な能力を理解するとともに、専門基礎科目および専門科目のユニットプログラムでの実践を通して、他者と協働してコミュニケーションを取りながら課題を解決する能力を身に付ける。特に、情報分野ではコミュニケーション能力が重要となるため、専門基礎導入科目の情報社会系科目を通してこれらを学ぶ。</p> <p>(6) ソフトウェアの設計・開発に関連する科目では、情報技術の応用やコンピュータの利用だけでなく、継続的な粘り強い取り組みの重要性を理解する。将来の技術者としての倫理観は共通基盤の倫理系の科目および専門基礎導入科目の情報社会系科目で学ぶとともに、卒業研究における総合的な学びの中で身に付ける。さらに、研究活動を行う能動的な態度を活かしながら、情報技術者として必要な探究力を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】 共通基盤科目および専門基礎導入科目の情報社会系科目では、試験、小テストやレポートで内容の理解度を評価する。卒業研究では、活動状況（計画立案、遂行状況、コミュニケーション等）や卒業論文のまとめ方、そして複数の教員による発表審査結果を総合的にルーブリック等で評価する。</p>

<p>1 知識・リテラシー</p>	<p>(1) 専門基礎導入科目の講義と演習を通して、情報ネットワークと情報技術の理解に必要な情報と数理の基礎学力を修得する。この基礎学力とは、計算のみならず、数理の考え方を身に付けることで、身の回りの事象との関連性を論理的に理解することをいう。以上を踏まえて、情報技術基礎導入科目群（学部共通）を修得するとともに、情報ネットワーク基礎ユニットを通して、関連する自然科学の知識や基礎技能を体系的に理解する。</p> <p>(2) 共通基盤科目の数理情報系分野における ICT（情報通信技術）関連科目を初年次に学修した上で、データサイエンスにおけるリテラシーを身に付ける。さらに、プログラミング科目においては基礎的なプログラミングを学びながら論理的な思考力を修得する。特に、学科固有の専門基礎科目については、必要なデータ処理やプログラミングを通して、現代の情報ネットワーク技術者としての実践的な技能を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】共通基盤教育科目、専門基礎導入科目、そして専門基礎科目における試験、小テスト、レポート、演習で評価する。</p>
<p>2 課題解決力</p>	<p>(3) 専門科目のユニットプログラムでは、多面的で多角的な視点から物事を考え、情報ネットワークや情報技術に関する問題を解決する過程を学ぶ。学科固有の専門科目ではコンピュータを利用しながら情報ネットワークの構築に必要な技術を学ぶ。情報ネットワーク応用ユニットではソフトウェア開発やデータ分析を通して報告書をまとめる過程で、様々な事象と講義で得た知識を関連付けて考えることができる能力を身に付ける。学ぶ領域は、情報ネットワーク工学全般、情報セキュリティ、ネットワークアプリケーションの各分野から選択する。</p> <p>(4) 主に3年次のユニットプログラムを通して、情報ネットワークに関するネットワーク技術、セキュリティ技術およびアプリケーション技術の原理や機能の知識を体系化し、発見した課題についての分析的な問題解決能力を修得する。さらに、卒業研究では研究計画の立案や必要な調査を主体的に行い、そして、報告書の作成や発表を通して、第三者にその内容を論理的かつわかりやすく伝える能力を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】ユニットプログラムでは、課題達成状況やその到達プロセス、プレゼンテーションなどにより多面的に評価する。</p>
<p>3 学修に向き合う力 情報技術者として</p>	<p>(5) 社会人として必要な教養は共通基盤科目全般で学び、特に情報ネットワークに関する技術者像は倫理系科目やキャリア系科目などを通して学</p>

<p>の人間性</p>	<p>ぶ。その上で、社会で役立つ技術者として必要な能力を理解するとともに、専門基礎科目および専門科目のユニットプログラムでの実践を通して、他者と協働してコミュニケーションを取りながら課題を解決する能力を身に付ける。特に、情報ネットワーク分野ではコミュニケーション能力が重要となるため、専門基礎導入科目の情報社会系科目を通してこれらを学ぶ。</p> <p>(6) ソフトウェアの設計・開発に関連する科目では、情報ネットワーク技術の応用やコンピュータの利用だけでなく、継続的な粘り強い取り組みの重要性を理解する。将来の技術者としての倫理観は共通基盤の倫理系の科目および専門基礎導入科目の情報社会系科目で学ぶとともに、卒業研究における総合的な学びの中で身に付ける。さらに、研究活動を行う能動的な態度を活かしながら、情報ネットワーク技術者として必要な探究力を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】共通基盤科目および専門基礎導入科目の情報社会系科目では、試験、小テストやレポートで内容の理解度を評価する。卒業研究では、活動状況（計画立案、遂行状況、コミュニケーション等）や卒業論文のまとめ方、そして複数の教員による発表審査結果を総合的にルーブリック等で評価する。</p>
-------------	--

情報メディア学科 CP

<p>1 知識・リテラシー</p>	<p>(1) 専門基礎導入科目の講義と演習を通して、情報メディアとコンテンツ制作の技術の理解に必要な情報と数理の基礎学力を修得する。この基礎学力とは、計算のみならず、数理の考え方を身に付けることで、身の回りの事象との関連性を論理的に理解することをいう。以上を踏まえて、情報技術基礎導入科目群（学部共通）を修得するとともに、（情報メディア）基礎ユニットを通して、関連する自然科学の知識や基礎技能を体系的に理解する。</p> <p>(2) 共通基盤科目の数理情報系分野における ICT（情報通信技術）関連科目を初年次に学修した上で、データサイエンスにおけるリテラシーを身に付ける。さらに、プログラミング科目においては基礎的なプログラミングを学びながら論理的な思考力を修得する。特に、学科固有の専門基礎科目については、必要なデータ処理やプログラミングを通して、現代の情報メディア技術者やコンテンツ制作者としての実践的な技能を身に付ける。</p>
-------------------	---

	<p>【学修成果の評価方法】共通基盤教育科目、専門基礎導入科目、そして専門基礎科目における試験、小テスト、レポート、演習で評価する。</p>
<p>2 課題解決力</p>	<p>(3) 専門科目のユニットプログラムでは、多面的で多角的な視点から物事を考え、情報メディアやコンテンツ制作の技術に関する問題を解決する過程を学ぶ。学科固有の専門科目ではコンピュータを利用しながら情報メディアを取り巻く事象やコンテンツ制作に必要な技術を学ぶ。(情報メディア) 応用ユニットでは、情報メディア技術の評価やコンテンツ制作課題を通して報告書をまとめる過程で、様々な事象と講義で得た知識を関連付けて考えることができる能力を身に付ける。学ぶ領域は、情報メディア技術およびコンテンツ制作に関する分野から選択する。</p> <p>(4) 主に3年次以降のユニットプログラムを通して、情報メディアに関する表現技術・制作技術・エンジニアリングなど各技術を体系化し、発見した課題についての分析的な問題解決能力を修得する。さらに、卒業研究では研究計画の立案や必要な調査を主体的に行い、そして、報告書の作成や発表を通して、第三者にその内容を論理的かつわかりやすく伝える能力を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】ユニットプログラムでは、課題達成状況やその到達プロセス、プレゼンテーションなどにより多面的に評価する。</p>
<p>3 学修に向き合う力 情報技術者としての 人間性</p>	<p>(5) 社会人として必要な教養は共通基盤科目全般で学び、特に情報メディアに関する技術者像やコンテンツ制作者像は倫理系科目やキャリア系科目などを通して学ぶ。その上で、社会で役立つ技術者および制作者として必要な能力を理解するとともに、専門基礎科目および専門科目のユニットプログラムでの実践を通して、他者と協働してコミュニケーションを取りながら課題を解決する能力を身に付ける。特に、情報メディア分野ではコミュニケーション能力が重要となるため、専門基礎導入科目の情報社会系科目を通してこれらを学ぶ。</p> <p>(6) 情報メディアの技術開発やコンテンツ制作に関連する科目では、それぞれの技術の応用やコンピュータの利用だけでなく、継続的な粘り強い取り組みの重要性を理解する。将来の技術者としての倫理観は共通基盤の倫理系の科目および専門基礎導入科目の情報社会系科目で学ぶとともに、卒業研究における総合的な学びの中で身に付ける。さらに、研究活動を行う能動的な態度を活かしながら、情報メディア技術者およびコンテンツ制作者として必要な探究力を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】共通基盤科目および専門基礎導入科目の情報社会系</p>

	科目では、試験、小テストやレポートで内容の理解度を評価する。卒業研究では、活動状況（計画立案、遂行状況、コミュニケーション等）や卒業論文のまとめ方、そして複数の教員による発表審査結果を総合的にルーブリック等で評価する。
--	---

情報システム学科 CP

1 知識・リテラシー	<p>(1) 専門基礎導入科目の講義と演習を通して、情報システムと情報技術の理解に必要な情報と数理の基礎学力を修得する。また、専門基礎科目の講義と演習を通して、情報システムと工学を融合させる技術の理解に必要な工学の基礎学力を修得する。この基礎学力とは、計算のみならず、数理の考え方を身に付けることで、身の回りの事象との関連性を論理的に理解することをいう。以上を踏まえて、情報技術基礎導入科目群（学部共通）と専門基礎科目を修得するとともに、情報システム基礎ユニットを通して、関連する自然科学の知識や基礎技能を体系的に理解する。</p> <p>(2) 共通基盤科目の数理情報系分野における ICT（情報通信技術）関連科目を初年次に学修した上で、データサイエンスにおけるリテラシーを身に付ける。さらに、プログラミング科目においては基礎的なプログラミングを学びながら論理的な思考力を修得する。特に、学科固有の専門基礎科目については、必要なデータ処理やプログラミングを通して、現代の情報技術者としての実践的な技能を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】共通基盤教育科目、専門基礎導入科目、そして専門基礎科目における試験、小テスト、レポート、演習で評価する。</p>
2 課題解決力	<p>(3) 専門科目の基礎ユニットでは、多面的で多角的な視点から物事を考え、情報システムや情報技術さらに工学に関する問題を解決する過程を学ぶ。学科固有の専門科目ではコンピュータを利用しながら情報システムの構築に必要な技術を学ぶ。また、基礎ユニットおよび専門科目内でのレポート課題をまとめる課程で、様々な事象と講義で得た知識を関連付けて考えることができる能力を身に付ける。学ぶ領域は、情報工学全般、ロボット、ライフサポートシステムの各分野から選択する。</p> <p>(4) 主に情報システム応用ユニットや情報システム専門ユニットを通して、情報工学、機械工学、電気・電子工学、さらに人間科学の知識や技術を体系化し、発見した課題についての分析的な問題解決能力を修得する。さらに、卒業研究では研究計画の立案や必要な調査を主体的に行い、そし</p>

	<p>て、報告書の作成や発表を通して、第三者にその内容を論理的かつわかりやすく伝える能力を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】ユニットプログラムでは、課題達成状況やその到達プロセス、プレゼンテーションなどにより多面的に評価する。</p>
3 学修に向き合う力 情報技術者としての 人間性	<p>(5) 社会人として必要な教養は共通基盤科目全般で学び、特に情報システムに関する技術者像はキャリア系科目などを通して学ぶ。その上で、社会で役立つ技術者として必要な能力を理解するとともに、専門基礎科目および専門科目のユニットプログラムでの実践を通して、他者と協働してコミュニケーションを取りながら課題を解決する能力を身に付ける。特に、情報分野ではコミュニケーション能力が重要となるため、専門基礎導入科目の情報社会系科目を通してこれらを学ぶ。</p> <p>(6) 情報システムの設計・開発に関連する科目では、情報技術の応用やコンピュータの利用だけでなく、継続的な粘り強い取り組みの重要性を理解する。将来の技術者としての倫理観は共通基盤の倫理系の科目を中心に学び、専門基礎導入科目の情報社会系科目でも学ぶとともに、卒業研究における総合的な学びの中で身に付ける。さらに、研究活動を行う能動的な態度を活かしながら、情報技術者として必要な探究力を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】共通基盤科目および専門基礎導入科目の情報社会系科目では、試験、小テストやレポートで内容の理解度を評価する。卒業研究では、活動状況（計画立案、遂行状況、コミュニケーション等）や卒業論文のまとめ方、そして複数の教員による発表審査結果を総合的にルーブリック等で評価する。</p>

【健康医療科学部3学科の学科 CP】

看護学科 CP

1 知識・リテラシー	<p>(1) 共通基盤教育の「数理情報系」、「人文社会系」、「健康・スポーツ系」科目群の講義・演習・実習を通して、自然・社会・多様な文化・グローバル化する社会に関する基礎知識を修得する。</p> <p>(2) 専門基礎導入科目群の「看護のための人間工学」「コミュニケーション論」などの講義・演習により、看護学分野の理解に必要な基礎知識を修得する。また、専門基礎科目の「人体の構造機能・疾病と回復促進」科目群</p>
------------	---

	<p>の講義を通して、看護専門職の基礎となる知識を修得する。さらに、「健康支援と社会保障制度」科目群の講義により、保健・医療・福祉の基本概念や手法を学ぶ。</p> <p>【学修成果の評価方法】共通基盤教育科目、専門基礎導入科目、専門基礎科目の試験・レポート・演習により評価する。</p>
<p>2 課題解決力</p>	<p>(3) 専門科目の「人間の発達段階と看護活動」科目群の講義、実習をとおして看護の統合と応用ができる実践能力を修得し、看護学分野の基礎知識・技能を応用して新たな問題を発見・解決することを学ぶ。専門科目の「人間の発達段階と看護活動」科目群の講義、実習を通して看護の統合と応用ができる実践能力を修得し、看護学分野の基礎知識・技能を応用して新たな問題を発見・解決することを学ぶ。</p> <p>(4) 専門科目群の講義、演習により課題解決のための専門知識・技能・態度を修得する。また、専門科目群の実習での実践的体験型教育と「看護研究」の実践的課題解決型教育により課題を解決する方法を学ぶ。さらに、専門科目群の実習での実践的体験型教育と「看護研究」の実践的課題解決型教育の中で、看護実践や看護研究における目的設定と計画に基づく行動を学ぶ。</p> <p>【学修成果の評価方法】専門科目の講義では、試験・レポート・演習により評価して、「人間の発達段階と看護活動」科目群での実施状況を、レポート・看護過程・看護活動により評価する。また「実践総合演習（OSCE）」の実施状況、「看護研究Ⅱ」の研究計画書作成と発表に対して複数の教員で総合的に評価する。</p>
<p>3 学修に向き合う力 看護専門職としての 人間性</p>	<p>(5) 共通基盤教育の「導入系」、「言語系・言語応用」科目群および「情報・AI リテラシー」の講義・演習を通して、知識や意見の伝達と傾聴の方法の基礎を学ぶ。また、国際的なコミュニケーションの基礎となる英語基礎力を「言語系・英語基礎」科目群の講義・演習で修得する。さらに、専門科目群の実習での協働作業とプレゼンテーションにより、多様な専門職との連携の必要性を実感し、また「インタープロフェッショナルワーク論」により体験学習を行い、チームで働くことが多い医療職に必要な「協調性」や自分の意見をわかりやすく「発信する力」を修得する。</p> <p>(6) 専門科目の「看護の基本」科目群の講義・演習・実習を通して、看護専門職として必要な倫理観と責任感を学ぶ。また、専門科目群の講義・演習・実習を通して、看護専門職が活躍する場での自分の役割と期待される行動について学ぶ。</p>

	<p>【学修成果の評価方法】共通基盤教育では、試験・演習・プレゼンテーションにより評価する。専門科目の講義・演習・実習では、グループメンバー・患者・医療職者等との関わり方の評価、レポート、プレゼンテーションにより評価する。看護専門職としての職業倫理・ルール・約束・マナーの理解度は、試験・レポート・看護学実習での行動・面接により評価する。</p>
--	---

管理栄養学科 CP

<p>1 知識・リテラシー</p>	<p>(1) 専門基礎導入科目の講義と演習を通して、栄養や健康の理解に必要な化学と生物の基礎学力を修得する。この基礎学力とは、計算のみならず、科学的素養を身に付けることで、身の回りの事象との関連性を論理的に理解することをいう。以上を踏まえて、管理栄養士・栄養士を目指す動機づけにつながる専門基礎科目の講義で「社会・環境と健康」、「人体の構造や機能、疾病の成り立ち」、「食べ物と健康」それぞれの科目群の知識や基礎技能を体系的に理解する。</p> <p>(2) 共通基盤科目の数理情報系分野における「情報・AIリテラシー」を初年次に学修した上で、情報およびデータサイエンスにおける基礎知識とリテラシーを身に付ける。さらに専門関連科目の「Web 技術入門」、「画像情報処理」、「情報統計」の講義、演習を通して、Web の原理、画像処理、データの統計処理を修得するとともに、栄養の専門職として必要な情報技術に関する基礎的技能を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】共通基盤教育科目、専門基礎導入科目、専門基礎科目、専門関連科目における試験、小テスト、レポート、演習で評価する。</p>
<p>2 課題解決力</p>	<p>(3) 専門基礎科目の実験、実習では、多面的で多角的な視点からの食品・生物の性質・特徴および動的变化の観察を通して、栄養・生命現象に関する基礎知識および取扱いの基礎的技術を体系的に取得する。学内で行う専門科目の実習において、栄養や健康に関する課題・問題のデータの計測・解析および報告書をまとめる過程で、様々な事象と講義で得た知識を関連付けて考えることができる能力を身に付ける。「総合演習」、「+α資格取得プロジェクト」、「臨地実習」、「卒業研究」の実践的課題解決型教育により、基礎知識・技能を応用して新たな問題を発見し、解決する方法を学ぶ。</p> <p>(4) 専門科目において、管理栄養士・栄養士としての専門性を高めるために必要とされる「基礎栄養学」、「応用栄養学」、「栄養教育論」、「臨床栄養学」、「公衆栄養学」、「給食経営管理論」それぞれの科目群の講義を通して、</p>

	<p>栄養評価・判定に基づいた企画、実施、評価の総合的なマネジメントを行う能力を学ぶ。さらに、専門基礎科目及び専門科目の実験、演習、実習を通して、PDCA サイクルに基づいて目的設定と計画立案、行動する力、評価して課題を発見する力、発見した課題についての分析的な問題解決能力を修得する。さらに、卒業研究では研究計画の立案や必要な調査を主体的に行い、そして、報告書の作成や発表を通して、第三者にその内容を論理的かつわかりやすく伝える能力を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】専門基礎科目、専門科目では試験、レポート、実験、演習、実習により評価する。「総合演習」、「+α資格取得プロジェクト」、「臨地実習」では実施状況を実習記録、レポートにより評価する。「卒業研究」では、課題達成状況やその到達プロセス、プレゼンテーションなどにより多面的に評価する。</p>
<p>3 学修に向き合う力 栄養の専門職としての人間性</p>	<p>(5) 社会人として必要な教養は共通基盤科目全般で学び、特に倫理系科目を通して学ぶ。また、専門基礎科目の「社会・環境と健康」科目群を通して管理栄養士の社会的な責任に対する自覚を高め、対象者等との信頼関係の確立に必要な職業倫理を学ぶ。さらに、専門科目の「臨地実習」により、社会で役立つ管理栄養士・栄養士として必要な能力を理解するとともに、他者と協働してコミュニケーションを取りながら課題を解決する能力を身に付ける。</p> <p>(6) 将来の管理栄養士・栄養士としての倫理観は共通基盤教育科目の「生命倫理」や専門基礎科目の「栄養生命科学概論」で学ぶとともに、専門科目の「総合演習」、「臨地実習」、「卒業研究」における総合的な学びの中で身に付ける。さらに、研究活動を行う能動的な態度を活かしながら、管理栄養士・栄養士として必要な探究力を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】共通基盤科目では、試験、小テストやレポートで内容の理解度を評価する。専門基礎科目および専門科目は、試験、小テスト、レポート、演習、プレゼンテーション等で評価する。「総合演習」、「臨地実習」では実施状況を実習記録、レポートにより評価する。卒業研究では、活動状況（計画立案、遂行状況、コミュニケーション等）や卒業論文のまとめ方、そして研究発表に対して複数の教員で総合的に評価する。</p>

<p>1 知識・リテラシー</p>	<p>(1) 専門基礎科目（人体の構造及び機能、医学的基礎、理工学的基礎、医療情報技術とシステム工学の基礎）の講義と演習・実習を通して、臨床工学の理解に必要な物理・化学・生物・数学の基礎学力と、医療と関連工学の基礎知識や技能を体系的に理解する。</p> <p>(2) 共通基盤科目数理情報系の情報・AI リテラシーを1年次に学修した上で、2年次の専門基礎科目医療統計学でデータサイエンスにおけるリテラシーを身に付ける。1年次の情報処理工学実習において、基礎的なプログラミングを学びながら論理的な思考力を修得する。1年次の情報処理工学、3年次の医療情報セキュリティにおいて、臨床工学技士として必要な情報技術と情報セキュリティの基礎を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】共通基盤教育科目、専門基礎科目における試験、小テスト、レポート、授業内の演習、プレゼンテーション、討論・質疑応答で評価する。</p>
<p>2 課題解決力</p>	<p>(3) 専門科目の臨床実習、臨床工学セミナー、卒業研究などの実践型教育により、多面的で多角的な視点から物事を考え、専門知識・技術を応用して、医療現場における新たな問題を発見・解決することを学ぶ。専門科目の講義・演習・実習により、課題解決のための専門知識・技術を修得する。実習科目では、実習を行い、考察し、報告書をまとめる過程で、講義で得た知識と技術を関連付けて考えることができる能力を身に付ける。さらに、専門科目の臨床実習により、臨床工学技士の役割の把握と期待される行動を学ぶ。</p> <p>(4) 専門科目の講義・実習により、臨床工学に関する専門知識と技術を体系化し、医療現場における幅広い課題についての分析的な問題解決能力を修得する。さらに、卒業研究では研究計画の立案や必要な調査を主体的に行い、そして、報告書の作成や発表を通して、第三者にその内容を論理的かつわかりやすく伝える能力を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】専門科目等の講義では試験、小テスト、レポート、授業内の演習、プレゼンテーション、討論・質疑応答で評価して、臨床実習では実習態度や報告書などで評価する。また、卒業研究では活動状況（計画立案、遂行状況、コミュニケーション等）、論文、口頭発表、質疑応答を総合的に評価する。</p>

<p>3 学修に向き合う力 臨床工学技士としての人間性</p>	<p>(5) 臨床工学技士として必要な教養は共通基盤科目全般で学ぶ。その上で、臨床工学技士として必要な能力を理解するとともに、チーム医療論や臨床実習を通して、チーム医療の一員として他の医療専門職と協働してコミュニケーションを取りながら課題を解決する能力を身に付ける。</p> <p>(6) 総合演習では学内模擬試験、全国統一模擬試験、国家試験対策演習を通して、継続的な粘り強い取り組みの重要性を理解する。将来の医療専門職としての倫理観は共通基盤の倫理系の科目で学ぶとともに、卒業研究における総合的な学びの中で身に付ける。さらに、研究活動を行う能動的な態度を活かしながら、臨床工学技士として必要な探究力を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】共通基盤科目では、試験、小テストやレポートで内容の理解度を評価する。総合演習では、学内模擬試験・全国統一模擬試験の成績と国家試験対策演習の取り組み状況、臨床工学技士国家試験出題基準に準拠した判定試験で評価する。</p>
-------------------------------------	---

3 AP（入学者受入の方針）

I-2-(4) に掲げた作成方針に基づき、大学 AP、学科 AP を作成した。

(1) 大学 AP

神奈川工科大学は、考え・行動する人材の育成 - 社会で活躍できる人づくり - を教育目的としています。この教育目的に基づき、「卒業認定・学位授与の方針」（以下「DP」）で定めた知識・リテラシー、課題解決力、学習に向き合う力等を「教育課程編成・実施の方針」（以下「CP」）で定める教育内容・方法等により卒業までに身に付け、工学系・情報系・健康医療系の職業人として社会に貢献しようとする意欲を持つ学生を求めます。

教育目的に基づく DP を達成し、社会に貢献しようとする意欲を持つ学生が本学の求める学生像であることを示している。

大学全体の AP であることから、DP 同様に総括的な一文表記とした。

なお AP は高校生やそのステークホルダーである高校関係者、保護者にも提示するものであることから、「……を教育目的としています」、「……を求めます」という文末表記とした。

(2) 学科 AP

AP では、「求める人材」「選抜の方法」「選抜の詳細」を記述する。その際、どのような高校生等に本学をめざしていただきたいのかを明示する AP とするため、「求める人材」に力点を置いた AP とした。なお面接や学力試験等に係る「選抜の詳細」については、大学案内やホームページをいただきたいという表記としている。

「求める人材」では AP に該当し、学科 DP に示した 3 つの観点 (1)、(2)、(3) について、「基礎学力を高めようとする意欲がある」「考えようとする意欲がある」「取り組む意欲のある」人とした。特に第 1 観点の「知識・リテラシー」では「高校段階までの基礎学力を持つ」とせず、「基礎学力を高めようとする意欲がある」という表記とし、さらに文頭に「該当する人および該当しようとする人」とすることで、入学した学生を育てる大学であること、大学生としての成長には高校までのいわゆる成績よりも学ぼうとする意欲が大切であることを標榜する表記とした。また (3) については「粘り強く」という語により、粘り強い本学学生の良さ、強みを継承しそのような意欲のある学生を求めるという想いを入れた。「選抜の方法」では、学科における学修に必要な高校段階までに身に付けた基礎学力や学科で学ぶ意欲を把握するため、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施するという内容を学科の専門領域に則して記述した。

【工学部 3 学科の学科 AP】

機械工学科 AP

求める人材	本学の AP に該当し、また次の (1)～(3) に該当する人および該当しようとする人を求めます。 (1) 知識・リテラシー … 機械工学と機械技術の理解に必要な数学と物理の基礎学力を高めようとする意欲がある。 (2) 課題解決力 … 機械工学と機械技術の基礎知識・技能を活用し発展的に物事を考えようとする意欲がある。 (3) 学修に向き合う力、工学技術者としての人間性 … 粘り強く学修・探究活動・実験等に取り組む意欲のある人。
選抜の方法	機械工学を学修するために必要な高校段階までに身に付けた基礎学力や機械工学を学ぶための多様な学修意欲を把握するため、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施します。
選抜の詳細	面接や実験の内容、学力試験科目等の詳細は、大学案内、本学ホームページによりお知らせします。

電気電子情報工学科 AP

求める人材	<p>本学の AP に該当し、また次の (1)～(3) に該当する人および該当しようとする人を求めます。</p> <p>(1) 知識・リテラシー … 電気電子情報工学と情報エレクトロニクス技術の理解に必要な数学と物理の基礎学力を高めようとする意欲がある。</p> <p>(2) 課題解決力 … 電気電子情報工学と情報エレクトロニクス技術の基礎知識・技能を活用し発展的に物事を考えようとする意欲がある。</p> <p>(3) 学修に向き合う力、工学技術者としての人間性 … 粘り強く学修・探究活動・実験等に取り組む意欲のある人。</p>
選抜の方法	<p>電気電子情報工学を学修するために必要な高校段階までに身に付けた基礎学力や電気電子情報工学を学修する多様な意欲を把握するため、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施します。</p>
選抜の詳細	<p>面接や実験の内容、学力試験科目等の詳細は、大学案内、本学ホームページによりお知らせします。</p>

応用化学生物学科 AP

求める人材	<p>本学の AP に該当し、また次の (1)～(3) に該当する人および該当しようとする人を求めます。</p> <p>(1) 知識・リテラシー … 応用化学、応用生物および生命科学の理解に必要な化学、生物の基礎学力を高めようとする意欲がある。</p> <p>(2) 課題解決力 … 応用化学、応用生物および生命科学の基礎知識・技能を活用し発展的に物事を考えようとする意欲がある。</p> <p>(3) 学修に向き合う力、工学技術者としての人間性 … 粘り強く学修・探究活動・実験等に取り組む意欲のある人。</p>
選抜の方法	<p>応用化学、応用生物および生命科学を学修するために必要な高校段階までに身に付けた基礎学力や応用化学、応用生物および生命科学を学修する多様な意欲を把握するため、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施します。</p>
選抜の詳細	<p>面接や実験の内容、学力試験科目等の詳細は、大学案内、本学ホームページによりお知らせします。</p>

【情報学部 4 学科の学科 AP】

情報工学科 AP

求める人材	<p>本学の AP に該当し、また次の (1)～(3) に該当する人および該当しようとする人を求めます。</p> <p>(1) 知識・リテラシー … 情報工学の理解に必要な情報と数理の基礎学力を高めようとする意欲がある。</p> <p>(2) 課題解決力 … 情報工学の基礎知識・技能を活用し発展的に物事を考えようとする意欲がある。</p> <p>(3) 学修に向き合う力、情報技術者としての人間性 … 粘り強く学修・探究活動・実験等に取り組む意欲のある人。</p>
選抜の方法	<p>情報工学を学修するために必要な高校段階までに身に付けた基礎学力や情報工学を学修する多様な意欲を把握するため、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施します。</p>
選抜の詳細	<p>面接や実験の内容、学力試験科目等の詳細は、大学案内、本学ホームページによりお知らせします。</p>

情報ネットワーク・コミュニケーション学科 AP

求める人材	<p>本学の AP に該当し、また次の (1)～(3) に該当する人および該当しようとする人を求めます。</p> <p>(1) 知識・リテラシー … 情報ネットワークの理解に必要な情報と数理の基礎学力を高めようとする意欲がある。</p> <p>(2) 課題解決力 … 情報ネットワークの基礎知識・技能を活用し発展的に物事を考えようとする意欲がある。</p> <p>(3) 学修に向き合う力、情報技術者としての人間性 … 粘り強く学修・探究活動・実験等に取り組む意欲のある人。</p>
選抜の方法	<p>情報ネットワークを学修するために必要な高校段階までに身に付けた基礎学力や情報ネットワークを学修する多様な意欲を把握するため、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施します。</p>
選抜の詳細	<p>面接や実験の内容、学力試験科目等の詳細は、大学案内、本学ホームページによりお知らせします。</p>

情報メディア学科 AP

求める人材	<p>本学の AP に該当し、また次の (1)～(3) に該当する人および該当しようとする人を求めます。</p> <p>(1) 知識・リテラシー … 情報メディアの理解に必要な情報と数理の基礎学力を高めようとする意欲がある。</p> <p>(2) 課題解決力 … 情報メディアの基礎知識・技能を活用し発展的に物事を考えようとする意欲がある。</p> <p>(3) 学修に向き合う力、情報技術者としての人間性 … 粘り強く学修・探究活動・実験等に取り組む意欲のある人。</p>
選抜の方法	<p>情報メディアを学修するために必要な高校段階までに身に付けた基礎学力や情報メディアを学修する多様な意欲を把握するため、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施します。</p>
選抜の詳細	<p>面接や実験の内容、学力試験科目等の詳細は、大学案内、本学ホームページによりお知らせします。</p>

情報システム学科 AP

求める人材	<p>本学の AP に該当し、また次の (1)～(3) に該当する人および該当しようとする人を求めます。</p> <p>(1) 知識・リテラシー … 情報システムの理解に必要な情報と数理の基礎学力を高めようとする意欲がある。</p> <p>(2) 課題解決力 … 情報システムの基礎知識・技能を活用し発展的に物事を考えようとする意欲がある。</p> <p>(3) 学修に向き合う力、情報技術者としての人間性 … 粘り強く学修・探究活動・実験等に取り組む意欲のある人。</p>
選抜の方法	<p>情報システムを学修するために必要な高校段階までに身に付けた基礎学力や情報システムを学修する多様な意欲を把握するため、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施します。</p>
選抜の詳細	<p>面接や実験の内容、学力試験科目等の詳細は、大学案内、本学ホームページによりお知らせします。</p>

【健康医療科学部 3 学科の学科 AP】

看護学科 AP

求める人材	<p>本学の AP に該当し、また次の (1)～(3) に該当する人および該当しようとする人を求めます。</p> <p>(1) 知識・リテラシー … 看護専門職の素養の理解に必要な理数・情報の基礎学力を高めようとする意欲がある。</p> <p>(2) 課題解決力 … 看護専門職の素養としての基礎知識・技能を活用し発展的に物事を考えようとする意欲がある。</p> <p>(3) 学修に向き合う力、看護専門職としての人間性 … 粘り強く学修・探究活動・実習等に取り組む意欲があり、社会からの要請に応えようとする強い意識を有している。</p>
選抜の方法	<p>看護師をめざす上で必要な高校段階までに身に付けた基礎学力や看護師をめざす意欲を把握するため、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施します。</p>
選抜の詳細	<p>面接や実験の内容、学力試験科目等の詳細は、大学案内、本学ホームページによりお知らせします。</p>

管理栄養学科 AP

求める人材	<p>本学の AP に該当し、また次の (1)～(3) に該当する人および該当しようとする人を求めます。</p> <p>(1) 知識・リテラシー … 栄養学の理解に必要な情報とデータサイエンスの基礎学力を高めようとする意欲がある。</p> <p>(2) 課題解決力 … 栄養学の基礎知識・技能を活用し発展的に物事を考えようとする意欲がある。</p> <p>(3) 学修に向き合う力、栄養の専門職としての人間性 … 粘り強く学修・探究活動・実験等に取り組む意欲のある人。</p>
選抜の方法	<p>管理栄養士・栄養士をめざす上で必要な高校段階までに身に付けた基礎学力、栄養学を学ぶための多様な学習意欲、そして管理栄養士・栄養士に対する思い・理解を把握するため、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施します。</p>
選抜の詳細	<p>面接や実験の内容、学力試験科目等の詳細は、大学案内、本学ホームページによりお知らせします。</p>

臨床工学科 AP

<p>求める人材</p>	<p>本学の AP に該当し、また次の (1)～(3) に該当する人および該当しようとする人を求めます。</p> <p>(1) 知識・リテラシー … 臨床工学の理解に必要な物理・化学・生物・数学の基礎学力を高めようとする意欲がある。</p> <p>(2) 課題解決力 … 臨床工学の基礎知識・技能を活用し発展的に物事を考えようとする意欲がある。</p> <p>(3) 学修に向き合う力、臨床工学技士としての人間性 … 粘り強く学修・探究活動・実験等に取り組む意欲のある人。</p>
<p>選抜の方法</p>	<p>臨床工学を学修するために（臨床工学技士をめざす上で）必要な高校段階までに身に付けた基礎学力や臨床工学を学修する多様な意欲を把握するため、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施します。</p>
<p>選抜の詳細</p>	<p>面接や実験の内容、学力試験科目等の詳細は、大学案内、本学ホームページによりお知らせします。</p>

Ⅲ 3つのポリシー アセスメント・プラン

今回の3つのポリシー改訂の1番の目的は、実のある改善サイクルを始動して、教員にとっても学生にとっても有意義なカリキュラムの構築に活かすことにある。本学のカリキュラムで学んだ学生が、入学してから卒業するまでに、どれだけその能力が伸びるのか、あるいは伸ばすことができるのかが問われている。無論、卒業時の学生の質保証にもつながる問題である。

一方、従来の3つのポリシーは、それぞれの学科のカリキュラムに合わせて作成された感もあった。そのために、改善サイクルを回そうとした際、実質的なやりにくさがあった。いくつかの項目では重複等が見られた。そして、3つのポリシー全体を明確に評価することは、さらに難しかった。

前ページまでに示されているように、今回の改定では、大学 DP に始まって、学部 DP から学科 DP を策定したことで階層的な構造になっている。そして、それぞれの学科 DP に合わせて CP が策定され、AP も見直された。このことにより、改善サイクルのしやすさは格段に向上したものとなった。

今後は、各科目と DP・CP の紐付け（カリキュラムマップ）を行うことで、3つのポリシーを俯瞰しながら具体的な改善箇所を指摘できるようにすることが肝要である。このことは、結果として学生の質保証と教員負荷の低減につながるものと考えている。以上のような改善サイクルを回すこと、これがアセスメント・プランであると考えている。

では、具体的にどのようなアセスメントを実行すれば良いのか？

どうすれば、3つのポリシー全体を明確に評価できるようになるのか？

まず、DP のアセスメントについて述べる。ここではコンピテンシーとリテラシーを評価することになる。その手段の1つは、学生に受講してもらう PROG（アセスメントテスト）の実施（1年次と3年次）および活用である。コンピテンシーは、対人基礎力（DP(5)）、對自己基礎力（DP(6)）、そして対課題基礎力（DP(3)）の達成度が評価される。また、リテラシーは主に DP(4)に関する達成度が評価される。

ここで、PROG は、学生自らが自身の力の伸びを確認することのみならず、全国の多くの大学生が受講していることから、自らの立ち位置を確認することにつながる。我々も、PROG で得られたデータを分析することで、カリキュラムの良い点と改善点を顕在化できると考えられる。

もう1つ重要なことは、カリキュラムマップを作成した上で DP 達成の評価のためのコア科目を設定することである。しかしながら、現状の課題は、本学にはカリキュラムマップがないことである。したがって、これを確実に作成することが DP のアセスメントに直結する。

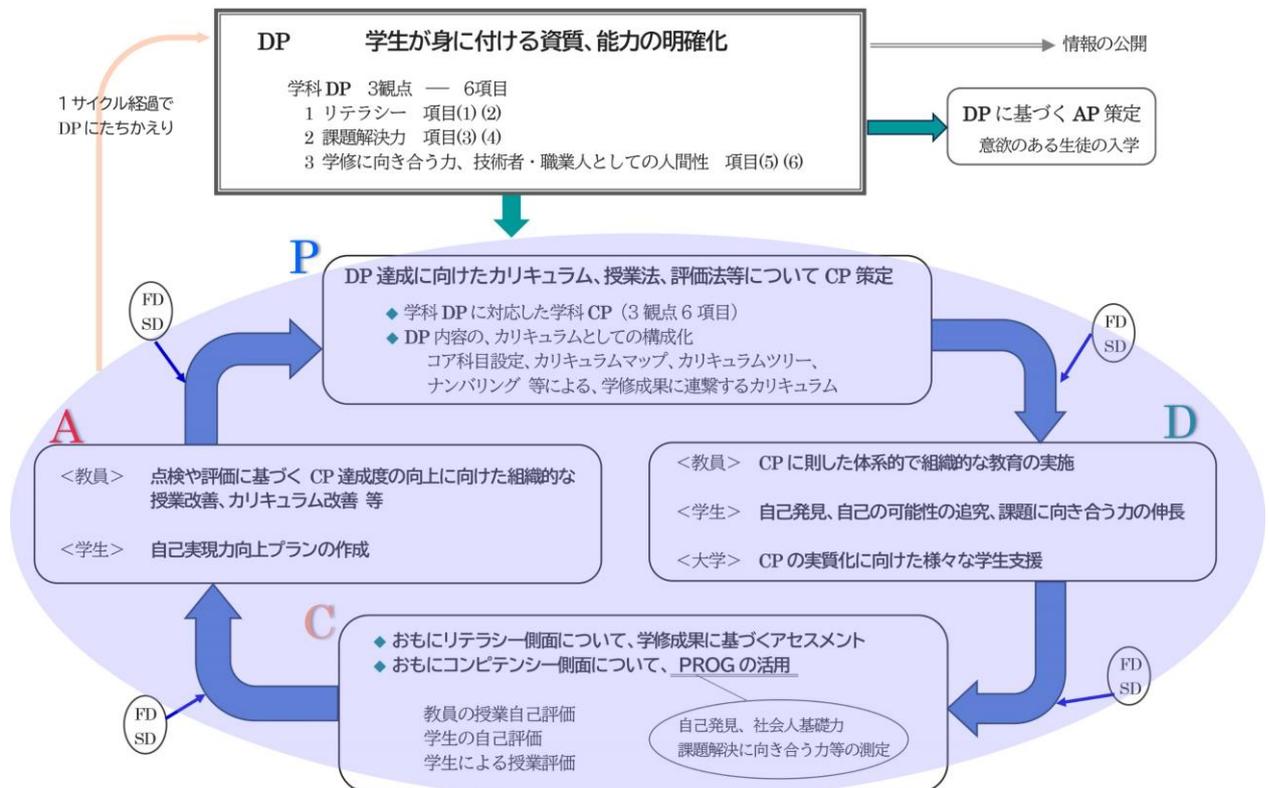
次に、CP のアセスメントについて述べる。ここでは、既に本学で行われてきた GPA、単位取得率、出席率等のデータを分析して評価することになる。その際、シラバスの点検や授業アンケートの結果も分析に加えることになる。しかし、このような評価を行う場合の手法（ルーブリック等）について

は、まだ検討の余地があるとする。

上記アセスメントの結果に加えて、本学卒業生が社会に出た後の調査（卒業時アンケートや企業アンケート）を行った上で、DP 達成度の可視化までできるようにするための全体構成とシステムを検討していく必要がある。

上述したように、アセスメントポリシーの実質化はこれからが本番である。3つのポリシーそれぞれを食材とすれば、どのようなアセスメントで調理をするのか。その調理によっては美味しくも不味くもなる。アセスメントが機能しなければ、今回の3つのポリシーもいずれは形骸化するであろう。したがって、その運営方法も含めて慎重かつ実直に進める必要がある。

今後とも、皆様のご理解とご協力を賜りたい。



KAIT 3 ポリ アセスメント概念図

あとがき

3つのポリシー運営委員会ワーキンググループ
教育開発センター所長

山本 一雄

2024年度から実施されている『神奈川工科大学3つのポリシー』の初版は2024年1月に刊行されました。まずは、われわれがこの新しい3つのポリシーに至った経緯から述べさせていただきます。

本学では2017年に3つのポリシーを導入しましたが、当時はカリキュラムありきでのポリシー作成であり、学修成果の可視化を行うことまで意識した構成になっていませんでした。そのため、学修成果の達成度評価(アセスメント)の方法が確立できず、3つのポリシーに沿った教育の実質化が進みませんでした。その反省を生かし、新しい3つのポリシーを高校までの学力の3要素に対応する3つの観点を基礎にした階層的な構成にし、アセスメントを行うにあたっての学修成果の区分を明瞭にしました。これにより、学修成果の達成度評価に道筋がみえるようになりました。教育の実質化を進めるにあたり、ようやく土台となる基礎の部分が完成したと言えます。

改めて読み返してみますと、意図していたことではありますが、想定以上に全学科での記述に統一感があるという印象を持ちます。3つのポリシー運営委員会ワーキンググループで作成した叩き台を基に3つのポリシー作成委員の先生方に各学科のDP、CPを作成していただきましたが、その期間は短いものでありましたが、作成内容、趣旨をよく理解いただいていたことがわかります。それまでの3つのポリシーでは教育の実質化が進まなかったとは述べましたが、3つのポリシーの思想自体は全学的に浸透していることがうかがえました。

2025年4月に井上哲理先生が新学長に就任されたことを受け、冒頭に新学長の挨拶を掲げることを主たる目的として第2版を作成いたしました。3つのポリシー自体には変更はありませんが、初版の誤植部分を改め、また説明部分についてよりわかりやすい文章とすることをめざしました。

この新たな3つのポリシーを基としたDP達成に向けてのアセスメントは、すでに初版発行直後の2024年度中から具体的な方策について検討に入り、すでに一部は実施されています。また、学生一人ひとりに学部ごとのDP、CPの冊子を配付しており、学生自身がDP達成に向けて歩む道筋の一端を提供していますので、学生自身の自己評価あるいは学生による授業評価にも反映されていくことを期待できる状況にあります。アセスメント、教育改革は日々の教学の中で進展するものですから、これからもこの冊子に基づく教職員一丸となった取組が求められます。今後ともご協力をお願いいたしますとともに、学内外を問わず多くの皆さまのご助言、お力添えを賜りたく存じます。

資料

神奈川工科大学 DP、CP

神奈川工科大学 AP

神奈川工科大学 DP (ディプロマ・ポリシー)、CP (カリキュラム・ポリシー)

<p>大学DP</p>	<p>工学系・情報系・健康医療系の技術系職業人としての基礎知識である自然科学、情報、データサイエンスのリテラシーを身に付けている。また、体系化した知識・技能を活用して新たな課題を設定し、広い視野のもとで課題解決に向けて論理的に説明できる能力、社会人として活躍するためのコミュニケーション能力や他者との協働力を身に付けている。さらに、主体的な学修姿勢を身に付けている。これらの能力をそなえ、技術系職業人としての社会的責任や倫理観を理解している者に学士の学位を授与し、卒業を認定する。</p>
<p>工学部 学部DP</p>	<p>工学に關する自然科学の基礎知識、技術者の基盤としての数学、物理、情報、データサイエンスのリテラシー等を身に付けている。 工学技術者としての基礎知識を活用し多面的に物ごとを考慮する能力、制約のある条件のもとで計画した目標を実現する創造力を身に付けている。 獲得した知識を体系化して理解し、その知識や技術をもとに論理的な課題設定能力と課題解決能力、論理的で明確な説明能力を身に付けている。 工学技術者として、かつ社会人として活躍するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、また他者との協働力を身に付けている。 主体的な学修姿勢を身に付けており、工学技術者としての社会的責任を理解し、かつ技術者としての倫理観を身に付けている。</p>
<p>学科・観点</p>	<p>学科CP</p>
<p>1 知識・リテラシー</p>	<p>(1) 専門基礎導入科目の講義と演習を通して、機械工学と機械技術の理解に必要な物理と数学の基礎学力を修得する。この基礎学力とは、計算のみならず、教理の考え方を身に付けることで、身の回りの現象との関連性を論理的に理解することをいう。以上を踏まえて、専門基礎科目(4)力学：材料力学、流体力学、熱力学、機械力学と加工学)を修得するとともに、専門科目の実験や設計・プロジェクト科目を通して、関連する自然科学の知識や基礎技能を体系的に理解する。</p> <p>(2) 共通基礎科目の数理情報系分野におけるICT(情報通信技術)関連科目を初年次に学修した上で、データサイエンスにおけるリテラシーを身に付ける。さらに、プログラミング科目においては基礎的なプログラミングを学びながら論理的な思考力を修得する。特に、自動車システム工学コースや環境・エネルギー工学コース、そして航空・宇宙分野の科目については、必要なデータ処理やプログラミングを通して、現代の機械工学技術者としての実践的な技能を身に付ける。</p>
<p>2 課題解決力</p>	<p><学修成果の評価方法> 共通基礎教育科目、専門基礎導入科目、そして専門基礎科目における試験、小テスト、レポート、演習で評価する。</p> <p>(3) 専門科目の設計開発・プロジェクト科目では、多面的で多角的な視点から物事を考え、機械工学や機械技術に關する問題を解決する過程を学ぶ。設計・製図科目ではコンピュータを利用しながらもつくりに必要な技術や知識を学ぶ。実験科目ではデータを計測・解析して報告書をまとめる過程で、様々な現象と講義で得た知識を関連付けて考えることができる能力を身に付ける。学ぶ領域は、機械工学全般、自動車システム工学、宇宙工学、環境・エネルギー工学、航空・宇宙分野がある。また、教員養成のプログラムもある。</p>
<p>3 学修に向き合う力、工学技術者としての人間性</p>	<p>(4) 主に(3)年次以降のプロジェクト・ユニット科目を通して、機械工学に關する(4)力学や機械要素の原理や機能の知識を体系化し、発見した課題についての分析的な問題解決能力を修得する。さらに、卒業研究では研究計画の立案や必要な調査を主体的に行い、そして、報告書および卒業論文の作成や発表を通して、第三者にその内容を論理的かつわかりやすく伝える能力を身に付ける。</p> <p><学修成果の評価方法> プロジェクト科目やユニット科目では、課題達成状況やその到達プロセス、プレゼンテーションなどにより多面的に評価する。</p> <p>(5) 社会人として必要な教養は共通基礎科目全般で学び、特に機械工学に關する技術者像は倫理系科目やキャリア系科目などを通して学ぶ。その上で、社会で役立つ技術者として必要な能力を理解するとともに、プロジェクト科目やユニット科目での実践を通して、他者と協働してコミュニケーションを取りながら課題を解決する能力を身に付ける。教員養成の分野では特にコミュニケーション能力が重要となるため、関連する科目を学ぶ。</p> <p>(6) 粘り強く学修・探究活動・実験等に取り組む姿勢を身に付けている。また、技術者としての社会的責任を理解し、倫理観を身に付けている。</p>
<p>機械工学科</p>	<p><学修成果の評価方法> 共通基礎科目では、試験、小テストやレポートで内容の理解度を評価する。卒業研究では、活動状況(計画立案、遂行状況、コミュニケーション等)や卒業論文のまとめ方、そして複数の教員による発表審査結果を総合的にルーブリック等で評価する。</p>

	<p>(1) 電気電子情報工学と情報エレクトロニクス技術の理解に必要な物理・数学の基礎学力を修得する。この基礎学力とは、計算のみならず、数理解の考え方を身に付けることで、身の回りの事象との関連性を論理的に理解することをいう。以上を踏まえて、専門基礎科目「基礎電気回路、基礎電気学、プログラミンク」を修得するとともに、専門科目の実験や設計・プロジェクト科目を通して、関連する自然科学の知識や基礎技術を体系的に理解する。</p> <p>(2) 共通基礎科目の数理情報系分野におけるICT（情報通信技術）関連科目を初年次に学修した上で、データサイエンスにおけるリテラシーを身に付ける。さらに、プログラミンク科目においては基礎的なプログラミンクを学びながら論理的な思考力を修得する。電気電子情報工学と情報エレクトロニクスの科目については、必要なデータ処理やプログラミンクを通して、現代の電気電子情報技術者および情報エレクトロニクス技術者としての実践的な技能を身に付ける。</p>	<p>(1) 電気電子情報工学と情報エレクトロニクス技術の理解に必要な物理・数学の基礎学力を修得し、関連する自然科学の知識や基礎技術を体系的に理解できる。</p> <p>(2) 電気電子情報工学の技術者、情報エレクトロニクス技術者として必要な情報、データサイエンスのリテラシーを身に付けている。</p>
	<p><学修成果の評価方法> 共通基礎教育科目、専門基礎科目における試験、小テスト、レポート、演習で評価する。</p>	
	<p>(3) 専門科目の設計開発・プロジェクト科目では、多面的で多角的な視点から物事を考え、電気電子情報工学と情報エレクトロニクス技術に関する問題を解決する過程を学ぶ。設計・製造科目ではコンピュータを利用しながらものづくりに必要な技術を学ぶ。実験科目ではテーマを計測・解析して報告書をまとめる過程で、様々な事象と講義で得た知識を関連付けて考えることができる能力を身に付ける。学ぶ領域は、電気電子情報工学、電気主任技術者養成、情報エレクトロニクス、実習的電気技術者養成(国家資格取得)の各分野から選択する。</p> <p>(4) ユニット科目やプロジェクトを通して、電気電子情報工学と情報エレクトロニクスにおける専門基礎科目の知識を体系化し、発見した課題についての分析的な問題解決能力を修得する。さらに、卒業研究・卒業制作プロジェクトでは研究計画の立案や必要な調査を主体的に行い、そして、報告書の作成や発表を通して、第三者にその内容を論理的かつわかりやすく伝える能力を身に付ける。</p>	<p>(3) 基礎知識・技能を活用し、多面的で多角的な視点から物事を考え、電気電子情報工学、情報エレクトロニクス技術に関する問題を発見し、解決および新たな価値をつくり出せる。</p> <p>(4) 電気電子情報工学、情報エレクトロニクス技術に関する基礎知識を体系化し、発見した課題について専門知識を活用して問題を解決し、論理的に説明する能力を身に付けている。</p>
	<p><学修成果の評価方法> ユニット科目やプロジェクト科目では、課題達成状況やその到達プロセス、プレゼンテーションなどにより多面的に評価する。</p>	<p>(5) 電気電子情報工学技術者あるいは情報エレクトロニクス技術者、社会人として活躍するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、また他者との協働力を身に付けている。</p>
	<p>(5) 社会人として必要な教養は共通基礎科目全般で学び、特に電気電子情報工学と情報エレクトロニクスに属する技術者像は倫理系科目やキャリア系科目などを通して学ぶ。その上で、社会で役立つ技術者として必要な能力を理解するとともに、ユニット科目やプロジェクトでの実践を通して、他者と協働してコミュニケーションを取りながら課題を解決する能力を身に付ける。</p> <p>(6) ユニット科目、プロジェクト科目や卒業研究・卒業制作プロジェクトでは、電気電子情報工学と情報エレクトロニクスで学ぶべき応用やコンピュータの利用だけでなく、継続的に強い取り組みの重要性を理解する。将来の技術者としての倫理観は共通基礎の倫理系の科目で学ぶとともに、卒業研究や卒業制作プロジェクトにおける総合的な学びの中で身に付ける。さらに、研究活動を行う能動的な態度を涵かなし、工学技術者として必要な探究力を身に付ける。</p>	<p>(6) 主体的に学修・探究活動・実験等に取り組み姿勢を身に付けている。また、工学技術者の社会的責任を理解し、工学技術者としての倫理観を身に付けている。</p>
	<p><学修成果の評価方法> 共通基礎科目では、試験、小テストやレポートで内容の理解度を評価する。卒業研究では、活動状況（計画立案、遂行状況、コミュニケーション等）や卒業論文のまとめ方、そして複数の教員による発表審査結果を総合的にルーブリック等で評価する。</p>	
	<p>(1) 専門基礎科目の「微分積分学Ⅰ-Ⅲ」、専門基本科目の「有機化学」や「分析化学」、専門応用科目などの講義や演習を通して、化学と生物の理解に必要な自然科学の知識を修得する。この基礎学力とは、化学や生物の知識のみならず、定量的な思考や、数理的な考え方を身に付けることで、身の回りの事象との関連性を論理的に理解することを行う。</p> <p>(2) 共通基礎科目の数理情報系分野におけるICT（情報通信技術）関連科目を初年次に学修することで、データサイエンスにおけるリテラシーを身に付け、情報技術分野における基礎的なプログラミンク力を修得する。また専門教育科目群における情報系科目において、化学と生物に関連したデータ処理やプログラミンクなどの実践的な技能を身に付ける。</p>	<p>(1) 応用化学と応用生物および生命科学に必要な化学、生物の基礎学力を身に付けている。</p> <p>(2) 技術者として必要な情報技術、データサイエンスのリテラシーを身に付けている。</p>
	<p><学修成果の評価方法> それぞれの科目における試験、小テスト、レポート、演習で評価する。</p>	<p>(3) 基礎知識・技能を活用し、多面的で多角的な視点から物事を考え、化学、生物、生命科学に関する課題を発見し解決するとともに、新たな価値形成を見出すことができる。</p>

電気電子
情報工学科

1 知識・リテラシー

2 課題解決力

3 学修に向き合う力、
工学技術者としての人
間性

1 知識・リテラシー

応用化学 生物学科	2 課題解決力	(4) 化学や生物の専門分野に関する知識を体系化し、論理的にかつ発展的に導出した応用課題や目的に対して、多面的な視野のもとで解決を行い、成果を論理的に説明する能力を身に付けている。	(4) 主に(2)年次以降の専門教育科目において、またユニットプログラムや実験科目を通して、化学や生物の知識を体系的に理解し、発見した課題についての多面的かつ協働した問題解決能力を修得する。さらに、専門研究科目において、研究計画の立案・必要な調査・研究の遂行を主体的に行い、報告書の作成や発表を通して、第三者にその内容を論理的かつわかりやすく伝える能力を身に付ける。
		(5) 化学・生物系技術者及び社会人として活躍するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有し、他者と協働して目標を実現する力を身に付けている。	(5) 社会人として必要な教養は共通基盤科目全般で学び、社会で役立つ技術者として必要な能力を理解するとともに、他者と協働してコミュニケーションを取りながら課題を解決する能力を身に付ける。以上を踏まえて、卒業研究では総合力を高め、社会で活躍するための能力を修得する。
		(6) 主体的な学修・探究活動・実習活動による検証等に取り組む姿勢を身に付けている。また、技術者としての社会的責任を理解し、技術者としての倫理観を身に付けている。	(6) 将来の技術者としての倫理観や技術者像を共通基盤の倫理系科目やキャリア系科目などを通して学ぶ。また、卒業研究では、総合的な学びの中で倫理観や技術者像を学ぶとともに、研究活動を行う能動的な態度を活かしながら、工学技術者として必要な探究力を身に付ける。
情報学部 学部DP	3 学修に向き合う力、 工学技術者としての人間性		<p><学修成果の評価方法></p> <p>専門教育科目では、試験、演習で評価する。ユニットプログラムや実験科目では、課題達成状況やレポート類、プレゼンテーションなどにより多面的に評価する。</p> <p><学修成果の評価方法></p> <p>共通基盤科目では、試験、小テストやレポートで内容の理解度を評価する。卒業研究では、活動状況（計画立案、遂行状況、コミュニケーション等）や卒業論文のまとめ方、そして複数の教員による発表審査結果を総合的に評価する。</p>
		<p>学部DP1 学部DP2 学部DP3 学部DP4 学部DP5 学部DP6</p> <p>情報技術（または情報工学、または情報）に関する自然科学の基礎知識、物理、情報、データサイエンスのリテラシー等を身に付けている。情報技術者としての基礎知識を活用し多面的に物ごとを考える能力、制約のある条件のもとで計画した目標を実現する創造力を身に付けている。獲得した知識を体系化して理解し、その知識や技術をもとに論理的な課題設定能力と課題解決能力、論理的で明確な説明能力を身に付けている。情報技術者として、かつ社会人として活躍するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、また他者との協働力を身に付けている。主体的な学修姿勢を持ち、粘り強く探究する姿勢を身に付けており、情報技術者としての社会的責任を理解し、かつ技術者としての倫理観を身に付けている。</p>	
情報学部	1 知識・リテラシー		<p>学部CP</p> <p>(1) 専門基礎導入科目の講義と演習を通して、情報工学と情報技術の理解に必要な情報と数理の基礎学力を修得する。この基礎学力とは、計算のみならず、数理の考え方を身に付けることで、身の回りの現象と物運性を論理的に理解することをいう。以上を踏まえて、情報技術基礎導入科目群（学部共通）を修得するとともに、情報工学基礎ユニットを通して、関連する自然科学の知識や基礎技能を体系的に理解する。</p> <p>(2) 共通基盤科目の数理情報系分野におけるICT（情報通信技術）関連科目を初年次に学修した上で、データサイエンスにおけるリテラシーを身に付ける。さらに、プログラミング科目においては基礎的なプログラミングを学びながら論理的な思考力を修得する。特に、学科固有の専門基礎科目については、必要なデータ処理やプログラミングを通して、現代の情報技術者としての実践的な技能を身に付ける。</p>
		<p>学部・観点</p> <p>学部CP</p> <p>(1) 専門基礎導入科目の講義と演習を通して、情報工学と情報技術の理解に必要な情報と数理の基礎学力を修得する。この基礎学力とは、計算のみならず、数理の考え方を身に付けることで、身の回りの現象と物運性を論理的に理解することをいう。以上を踏まえて、情報技術基礎導入科目群（学部共通）を修得するとともに、情報工学基礎ユニットを通して、関連する自然科学の知識や基礎技能を体系的に理解する。</p> <p>(2) 共通基盤科目の数理情報系分野におけるICT（情報通信技術）関連科目を初年次に学修した上で、データサイエンスにおけるリテラシーを身に付ける。さらに、プログラミング科目においては基礎的なプログラミングを学びながら論理的な思考力を修得する。特に、学科固有の専門基礎科目については、必要なデータ処理やプログラミングを通して、現代の情報技術者としての実践的な技能を身に付ける。</p>	
情報工学科	2 課題解決力		<p><学修成果の評価方法></p> <p>共通基盤教育科目、専門基礎導入科目、そして専門基礎科目における試験、小テスト、レポート、演習で評価する。</p> <p>(3) 専門科目のユニットプログラムでは、多面的で多角的な視点から物事を考え、情報工学や情報技術に関する問題を解決する過程を学ぶ。学科固有の専門科目ではコンピュータやソフトウェアの構築に必要な技術を学ぶ。情報工学総合ユニットではソフトウェア開発やデータ分析を通して報告書をまとめる過程で、様々な事象と講義で得た知識を関連付けて考えることができる能力を身に付ける。学ぶ領域は、情報工学全般、コンピュータシステム、ソフトウェア開発の各分野から選択する。</p> <p>(4) 主に(3)年次以降のユニットプログラムを通して、情報工学に関するコンピュータシステムおよびソフトウェアの制御や機能の知識を体系化し、発見した課題についての分析的な問題解決能力を修得する。さらに、卒業研究では研究計画の立案や必要な調査を主体的に行い、そして、報告書の作成や発表を通して、第三者にその内容を論理的かつわかりやすく伝える能力を身に付ける。</p>
		<p><学修成果の評価方法></p> <p>ユニットプログラムでは、課題達成状況やその到達プロセス、プレゼンテーションなどにより多面的に評価する。</p> <p>(5) 社会人として必要な教養は共通基盤科目全般で学び、特に情報工学に関する技術者像は倫理系科目やキャリア系科目などを通して学ぶ。その上で、社会で役立つ技術者として必要な能力を理解するとともに、専門基礎科目および専門科目のユニットプログラムでの実践を通して、他者と協働してコミュニケーションを取りながら課題を解決する能力を身に付ける。特に、情報分野ではコミュニケーション能力が重要となるため、専門基礎導入科目の情報社会系科目を通してこれらを学ぶ。</p>	

	3 学修に向き合う力、情報技術者としての人間性	<p>(6) 主体的な学修・探究活動・実験実習による検証等に取り組み姿勢を身に付けている。また、情報技術者としての社会的責任を理解し、情報技術者としての倫理観を身に付けている。</p>	<p>(6) ソフトウェアの設計・開発に関連する科目では、情報技術の応用やコンピュータの利用だけでなく、継続的な粘り強い取り組みの重要性を理解する。将来の技術者として倫理観は共通基盤の倫理系の科目および専門基礎導入科目の情報社会学系科目で学ぶとともに、卒業研究における総合的な学びの中で身に付ける。さらに、研究活動を行う能動的な態度を活かしながら、情報技術者として必要な探究力を身に付ける。</p> <p><学修成果の評価方法> 共通基盤科目および専門基礎導入科目の情報社会学系科目では、試験、小テストやレポートで内容の理解度を評価する。卒業研究では、活動状況（計画立案、遂行状況、コミュニケーション等）や卒業論文のまとめ方、そして複数の教員による発表審査結果を総合的にルーブリック等で評価する。</p>
1 知識・リテラシー	<p>(1) 情報ネットワークの理解に必要な情報、数理の基礎学力を待ち、関連する自然科学の知識や基礎技術を体系的に理解できる。</p> <p>(2) 情報ネットワーク技術者として必要な情報技術、データサイエンスのリテラシーを身に付けている。</p>	<p><学修成果の評価方法> 共通基盤教育科目、専門基礎導入科目、そして専門基礎科目における試験、小テスト、レポート、演習で評価する。</p> <p>(3) 専門科目のユニネットプログラムでは、多面的に多角的な視点から物事を考え、情報ネットワークや情報技術に関する問題を解決する過程を学ぶ。学科固有の専門科目ではコンピュータを利用して情報ネットワークの構築に必要な技術を学ぶ。情報ネットワーク応用ユニネットではソフトウェア開発やデータ分析を通して報告書や発表資料をまとめる過程で、様々な事象と講義で得た知識を関連付けて考えることができ、能力を身に付ける。学ぶ領域は、情報セキュリティ、ネットワークエンジニアリングの高分野から選択する。</p> <p>(4) 主に(3)年次のユニネットプログラムを通して、情報ネットワークに関するネットワーク技術、セキュリティ技術およびアプリケーション技術の原理や機能の知識を体系化し、発見した課題についての分析的な問題解決能力を修得する。さらに、卒業研究では研究計画の立案や必要な調査を主体的に行い、そして、報告書の作成や発表を通して、第三者にその内容を論理的かつわかりやすく伝える能力を身に付ける。</p> <p><学修成果の評価方法> ユニネットプログラムでは、課題達成状況やその到達プロセス、プレゼンテーションなどにより多面的に評価する。</p>	
2 課題解決力	<p>(5) 情報ネットワーク技術者及び社会人として活躍するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有し、他者と協働して目標を達成する力を身に付けている。</p> <p>(6) 主体的な学修・探究活動・実験実習による検証等に取り組み姿勢を身に付けている。また、情報ネットワーク技術者としての社会的責任を理解し、情報ネットワーク技術者としての倫理観を身に付けている。</p>	<p>(5) 社会人として必要な教養は共通基盤科目全般で学び、特に情報ネットワークに関する技術者像は倫理系科目やキャリア系科目などを通して学ぶ。その上で、社会で役立つ技術者として必要な能力を理解するとともに、専門基礎科目および専門科目のユニネットプログラムでの実践を通して、他者と協働してコミュニケーションを取りながら課題を解決する能力を身に付ける。特に、情報ネットワーク分野ではコミュニケーション能力が重要となるため、専門基礎導入科目の情報社会学系科目を通してこれらを学ぶ。</p> <p>(6) ソフトウェアの設計・開発に関連する科目では、情報ネットワーク技術の応用やコンピュータの利用だけでなく、継続的な粘り強い取り組みの重要性を理解する。将来の技術者としての倫理観は共通基盤の倫理系の科目および専門基礎導入科目の情報社会学系科目で学ぶとともに、卒業研究における総合的な学びの中で身に付ける。さらに、研究活動を行う能動的な態度を活かしながら、情報ネットワーク技術者として必要な探究力を身に付ける。</p> <p><学修成果の評価方法> 共通基盤科目および専門基礎導入科目の情報社会学系科目では、試験、小テストやレポートで内容の理解度を評価する。卒業研究では、活動状況（計画立案、遂行状況、コミュニケーション等）や卒業論文のまとめ方、そして複数の教員による発表審査結果を総合的にルーブリック等で評価する。</p>	
情報ネットワーク・コミュニケーション学科	<p>(1) 情報メディアの理解に必要な情報、数理の基礎学力を待ち、関連する自然科学や工学の知識や基礎技術を体系的に理解できる。</p>	<p>(1) 専門基礎導入科目の講義と演習を通して、情報ネットワークと情報技術の理解に必要な情報と数理の基礎学力を修得する。この基礎学力とは、計算のみならず、数理の考え方を身に付けることで、身の回りの事象との関連性を論理的に理解することをいう。以上を踏まえ、情報技術基礎導入科目群（学部共通）を修得するとともに、情報ネットワーク基礎ユニネットを通して、関連する自然科学の知識や基礎技術を体系的に理解する。</p> <p>(2) 共通基盤科目の数理情報系分野におけるICT（情報通信技術）関連科目を初年次に専修した上で、データサイエンスにおけるリテラシーを身に付ける。さらに、プログラミング科目においては基礎的なプログラミングを学びながら論理的な思考力を修得する。特に、学科固有の専門基礎科目については、必要ならデータ処理やプログラミングを通して、現代の情報ネットワーク技術者としての実践的な技能を身に付ける。</p> <p><学修成果の評価方法> 共通基盤教育科目、専門基礎導入科目、そして専門基礎科目における試験、小テスト、レポート、演習で評価する。</p> <p>(3) 専門科目のユニネットプログラムでは、多面的に多角的な視点から物事を考え、情報ネットワークや情報技術に関する問題を解決する過程を学ぶ。学科固有の専門科目ではコンピュータを利用して情報ネットワークの構築に必要な技術を学ぶ。情報ネットワーク応用ユニネットではソフトウェア開発やデータ分析を通して報告書や発表資料をまとめる過程で、様々な事象と講義で得た知識を関連付けて考えることができ、能力を身に付ける。学ぶ領域は、情報セキュリティ、ネットワークエンジニアリングの高分野から選択する。</p> <p>(4) 主に(3)年次のユニネットプログラムを通して、情報ネットワークに関するネットワーク技術、セキュリティ技術およびアプリケーション技術の原理や機能の知識を体系化し、発見した課題についての分析的な問題解決能力を修得する。さらに、卒業研究では研究計画の立案や必要な調査を主体的に行い、そして、報告書の作成や発表を通して、第三者にその内容を論理的かつわかりやすく伝える能力を身に付ける。</p> <p><学修成果の評価方法> ユニネットプログラムでは、課題達成状況やその到達プロセス、プレゼンテーションなどにより多面的に評価する。</p> <p>(5) 社会人として必要な教養は共通基盤科目全般で学び、特に情報ネットワークに関する技術者像は倫理系科目やキャリア系科目などを通して学ぶ。その上で、社会で役立つ技術者として必要な能力を理解するとともに、専門基礎科目および専門科目のユニネットプログラムでの実践を通して、他者と協働してコミュニケーションを取りながら課題を解決する能力を身に付ける。特に、情報ネットワーク分野ではコミュニケーション能力が重要となるため、専門基礎導入科目の情報社会学系科目を通してこれらを学ぶ。</p> <p>(6) ソフトウェアの設計・開発に関連する科目では、情報ネットワーク技術の応用やコンピュータの利用だけでなく、継続的な粘り強い取り組みの重要性を理解する。将来の技術者としての倫理観は共通基盤の倫理系の科目および専門基礎導入科目の情報社会学系科目で学ぶとともに、卒業研究における総合的な学びの中で身に付ける。さらに、研究活動を行う能動的な態度を活かしながら、情報ネットワーク技術者として必要な探究力を身に付ける。</p> <p><学修成果の評価方法> 共通基盤科目および専門基礎導入科目の情報社会学系科目では、試験、小テストやレポートで内容の理解度を評価する。卒業研究では、活動状況（計画立案、遂行状況、コミュニケーション等）や卒業論文のまとめ方、そして複数の教員による発表審査結果を総合的にルーブリック等で評価する。</p> <p>(1) 専門基礎導入科目の講義と演習を通して、情報メディアとコンテンツ制作の技術の理解に必要な情報と数理の基礎学力を修得する。この基礎学力とは、計算のみならず、数理の考え方を身に付けることで、身の回りの事象との関連性を論理的に理解することをいう。以上を踏まえ、情報技術基礎導入科目群（学部共通）を修得するとともに、（情報メディア）基礎ユニネットを通して、関連する自然科学の知識や基礎技術を体系的に理解する。</p>	

1 知識・リテラシー	(2) 情報メディア技術者として必要な情報技術、データサイエンスのリテラシーを身に付けている。	(2) 共通基盤科目の数理情報系分野におけるICT（情報通信技術）関連科目を初年次に学修した上で、データサイエンスにおけるリテラシーを身に付ける。さらに、プログラミング科目においては基礎的なプログラミングを学びながら論理的な思考力を修得する。特に、学問固有の専門基盤科目については、必要なデータ処理やプログラミングを通して、現代の情報メディア技術者やコンテンツ制作者としての実践的な技能を身に付ける。
2 課題解決力	(3) 基礎知識と技能を活用し、多面的な視点から物事を考え、情報メディア、コンテンツ制作技術に関する課題を発見し解決するとともに、新たな価値形成を見出すことができる。	<p><学修成果の評価方法> 共通基盤教育科目、専門基礎導入科目、そして専門基礎科目における試験、小テスト、レポート、演習で評価する。</p> <p>(3) 専門科目のユニットプログラムでは、多面的で多角的な視点から物事を考え、情報メディアやコンテンツ制作の技術に関する問題を解決する過程を学ぶ。学問固有の専門科目ではコンピュータを利用しながら情報メディアを取り扱う事象やコンテンツ制作に必要な技術を学び、(情報メディア) 応用ユニットでは、情報メディア技術の評価やコンテンツ制作課題を通して報告書をもとめる過程で、様々な事象と講義で得た知識を関連付けて考えることができている能力を身に付ける。学ぶ領域は、情報メディア技術およびコンテンツ制作に関する分野から選択する。</p> <p>(4) 情報メディアやコンテンツ制作の分野に関する知識を体系化し、他者との考察をもとに論理的にかつ発展的に導出した応用課題や目標に好して、多面的な視野のもとで解決を行い、成果を論理的に説明する能力を身に付けている。</p>
3 学修に向き合う力、情報技術者としての人間性	(5) 情報メディア技術者やコンテンツ制作者及び社会人として活躍するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有し、他者と協働して目標を実現する力を身に付けている。	<p><学修成果の評価方法> ユニットプログラムでは、課題達成状況やその到達プロセス、プレゼンテーションなどにより多面的に評価する。</p> <p>(5) 社会人として必要な教養は共通基盤科目全範囲で学び、特に情報メディアに関する技術者やコンテンツ制作者は倫理系科目やキャリア系科目などを通して学ぶ。その上で、社会で役立つ技術者および制作者として必要な能力を理解するとともに、専門基礎科目および専門科目のユニットプログラムでの実践を通して、他者と協働してコミュニケーションを取りながら課題を解決する能力を身に付ける。特に、情報メディア分野ではコミュニケーション能力が重要なため、専門基礎導入科目の情報系科目を通してこれらを学ぶ。</p> <p>(6) 情報メディアの技術開発やコンテンツ制作に関連する科目では、それぞれの技術の応用やコンピュータの利用だけでなく、継続的な粘り強い取り組みの重要性を理解する。将来の技術者としての倫理観は共通基盤の倫理系の科目および専門基礎導入科目の倫理系科目で学ぶとともに、卒業研究における総合的な学びの中で身に付ける。さらに、研究活動を行う能動的な態度を活かしながら、情報メディア技術者およびコンテンツ制作者として必要な探究力を身に付ける。</p>
1 知識・リテラシー	(1) 情報システムを理解に必要な情報、数理の基礎学力をもち、関連する自然科学や工学の知識や基礎技術を体系的に理解できる。	<p><学修成果の評価方法> 共通基盤科目および専門基礎導入科目の情報系科目では、試験、小テストやレポートで内容の理解度を評価する。卒業研究では、活動状況（計画立案、遂行状況、コミュニケーション等）や卒業論文のまとめ方、そして複数の教員による発表装置器具を総合的にルーブリック等で評価する。</p> <p>(1) 専門基礎導入科目の講義と演習を通して、情報システムと情報技術の理解に必要な情報と数理の基礎学力を修得する。また、専門基礎科目の講義と演習を通して、情報システムと工学を融合させる技術の理解に必要な工学の基礎学力を修得する。この基礎学力とは、計算のみならず、数理の考え方を身に付けることで、身の回りの事象との関連性を論理的に理解することをいう。以上を踏まえて、情報技術基礎導入科目群（学部共通）と専門基礎科目を修得するとともに、情報システム基礎ユニットを通して、関連する自然科学の知識や基礎能力を体系的に理解する。</p> <p>(2) 共通基盤科目の数理情報系分野におけるICT（情報通信技術）関連科目を初年次に学修した上で、データサイエンスにおけるリテラシーを身に付ける。さらに、プログラミング科目においては基礎的なプログラミングを通して、現代の情報技術者としての実践的な技能を身に付ける。</p>
	(3) 基礎知識と技能を活用し、多面的な視点から物事を考え、情報システム、情報技術に関する課題を発見し解決するとともに、新たな価値形成を見出すことができる。	<p><学修成果の評価方法> 共通基盤教育科目、専門基礎導入科目、そして専門基礎科目における試験、小テスト、レポート、演習で評価する。</p> <p>(3) 専門科目の基礎ユニットでは、多面的で多角的な視点から物事を考え、情報システムや情報技術さらに工学に関する問題を解決する過程を学ぶ。学問固有の専門科目ではコンピュータを利用しながら情報システムの問題に必要な技術を学ぶ。また、基礎ユニットおよび専門科目内のレポート課題をもとめる課程で、様々な事象と講義で得た知識を関連付けて考えることができている能力を身に付ける。学ぶ領域は、情報工學全般、ロボット、ライフサポートシステムの各分野から選択する。</p>

情報システム学科	2 課題解決力	<p>(4) 情報システム分野に関する知識を体系化し、他者との考察をもとに論理的にかつ発展的に導出した応用課題や目標に対して、多面的な視野のもとで解決を行い、成果を論理的に説明する能力を身に付けている。</p> <p><学修成果の評価方法> ユニットプログラムでは、課題達成状況やその到達プロセス、プレゼンテーションなどにより多面的に評価する。</p>	<p>(4) 主に情報システム応用ユニットや情報システム専門ユニットを通して、情報工学、機械工学、電気・電子工学、さらに人間科学の知識や技術を体系化し、発見した課題について、卒業研究では研究計画の立案や必要な調査を主体的に行い、そして、報告書の作成や発表を通して、第三者にその内容を論理的かつわかりやすく伝える能力を身に付ける。</p>
	3 学修に向き合う力、情報技術者としての人間性	<p>(5) 情報技術者及び社会人として活躍するためのコミュニケーション能力を有し、他者と協働して目標を實現する力を身に付けている。</p> <p>(6) 主体的な学修・探究活動・実験実習による検証等に取り組み姿勢を身に付けている。また、情報技術者としての社会的責任を理解し、情報技術者としての倫理観を身に付けている。</p>	<p>(5) 社会人として必要な教養は共通基盤科目全般で学び、特に情報システムに關する技術者像はキャリア系科目などを通して学ぶ。その上で、社会で役立つ技術者として必要な能力を理解するとともに、専門基礎科目および専門科目のユニットプログラムでの実践を通して、他者と協働してコミュニケーションを取りながら課題を解決する能力を身に付ける。特に、情報分野ではコミュニケーション能力が重要なため、専門基礎導入科目の情報社会系科目を通してこれらを学ぶ。</p> <p>(6) 情報システムの設計・開発に關連する科目では、情報技術の応用やコンピュータの利用だけでなく、継続的な粘り強い取り組みの重要性を理解する。将来の技術者としての倫理観は共通基盤の倫理系の科目を中心に学び、専門基礎導入科目の情報社会系科目でも学ぶとともに、卒業研究における総合的な学びの中で身に付ける。さらに、研究活動を行う能動的な態度を活かしながら、情報技術者として必要な探究力を身に付ける。</p>
	健康医療科学部 学部DDP	<p>学部DDP1 学部DDP2 学部DDP3 学部DDP4 学部DDP5</p>	<p><学修成果の評価方法> 共通基盤科目および専門基礎導入科目の情報社会系科目では、試験、小テストやレポートで内容の理解度を評価する。卒業研究では、活動状況（計画立案、遂行状況、コミュニケーション等）や卒業論文のまとめ方、そして複数の教員による発表審査結果を総合的にルーブリック等で評価する。</p>
看護学科	1 知識・リテラシー	<p>(1) 看護専門職として、その専門分野における基本的な知識・技能を体系的に理解している。</p> <p>(2) 看護専門職の素養としての理数・情報分野の基礎知識とリテラシーを理解している。また、人間や社会、多様な文化に關する基礎知識を修得している。</p>	<p>(1) 共通基盤教育の「数事情報系」、「人文社会系」、「健康・スポーツ系」科目群の講義・演習・実習を通して、自然・社会、多様な文化・グローバル化する社会に關する基礎知識を修得する。</p> <p>(2) 専門基礎導入科目群の「看護のための人間工学」「コミュニケーション論」などの講義・演習により、看護分野の理解に必要な基礎知識を修得する。また、専門基礎科目の「人間の構造機能・疾病と回復促進」科目群の講義を通して、看護専門職の基礎となる知識を修得する。さらに、「健康支援と社会保障制度」科目群の講義により、保健・医療・福祉の基本概念や手法を学ぶ。</p>
	2 課題解決力	<p>(3) 看護分野に関する基礎的な知識と基本的な技術を応用し、発展させて、看護の進歩に即応しつつ看護や人々の健康に關連した問題を発見・解決して、新たな価値を生み出すことができる。</p> <p>(4) 看護や人々の健康に關連した様々な現実的課題に対して、どのような状況下においても専門知識・技術を活用し、専門職としての責任を自覚して、課題を解決することができる。</p>	<p>(3) 専門科目の「人間の発達段階と看護活動」科目群の講義、実習をおとして看護の統合と応用ができる実践能力を修得し、看護分野の基礎知識・技能を応用して新たな問題を発見・解決することを学ぶ。専門科目の「人間の発達段階と看護活動」科目群の講義、実習をおとして看護の統合と応用ができる実践能力を修得し、看護分野の基礎知識・技能を応用して新たな問題を発見・解決することを学ぶ。</p> <p>(4) 専門科目群の講義、演習により課題解決のための専門知識・技能、態度を修得する。また、専門科目群の実習での実地的体験型教育と「看護研究」の実践的課題解決型教育により課題を解決する方法を学ぶ。さらに、専門科目群の実習での実践的体験型教育と「看護研究」の実践的課題解決型教育の中で、看護実践や看護研究における目的設定と計画に基づく行動を学ぶ。</p>
		<p><学修成果の評価方法> 専門科目の講義では、試験・レポート・演習により評価し、「人間の発達段階と看護活動」科目群での実施状況を、レポート・看護過程・看護活動により評価する。また「実践総合演習（OSCE）」の実施状況、「看護研究Ⅱ」の研究計画書作成と発表に対して複数の教員で総合的に評価する。</p>	<p><学修成果の評価方法> 専門科目群の講義では、試験・レポート・演習により評価する。また、専門科目群の実習での実地的体験型教育と「看護研究」の実践的課題解決型教育の中で、看護実践や看護研究における目的設定と計画に基づく行動を学ぶ。</p>
	<p>学点・観点</p>	<p>学科CP</p>	<p>学科CP</p>

	<p>(5) 看護専門職として主体的、自律的に活躍するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、また他の保健医療福祉職と連携・協働する力を身に付けている。</p>	<p>(5) 共通基礎教育の「導入系」、「言語系・言語応用」科目および「情報・AIリテラシー」科目群および「情報・演習」の講義・演習を通して、知識や意見の伝達と傾聴の方法の基礎を学ぶ。また、国際的なコミュニケーションの基礎となる英語基礎科目群の講義・演習で修得する。さらに、専門科目群の実習での協働作業とプレゼンテーションにより、多様な専門職との連携の必要性を感受し、また「インテグレーション・モデル」により体験学習を行い、チームで働くことが多い医療職に必要な「協調性」や自分の意見をわかりやすく「発信する力」を修得する。</p>
<p>3 学修に向き合う力、看護専門職としての人間性</p>	<p>(6) 看護専門職として期待されている自分の役割を把握し、行動することができる。また、看護専門職としての職業倫理を理解し実践することができる。</p>	<p>(6) 専門科目の「看護の基本」科目群の講義・演習・実習を通して、看護専門職として必要な倫理観と責任感を学ぶ。また、専門科目群の講義・演習・実習を通して、看護専門職が活躍する場での自分の役割と期待される行動について学ぶ。</p>
	<p><学修成果の評価方法> 共通基礎教育では、試験・演習・プレゼンテーションにより評価する。専門科目の講義・演習・実習では、グループメンバー・患者・医療職者等との関わり方の評価、レポート、プレゼンテーションにより評価する。看護専門職としての職業倫理・ルール・約束・マナーの理解度は、試験・レポート・看護学実習での行動・面接により評価する。</p>	<p><学修成果の評価方法> 共通基礎教育では、試験・演習・プレゼンテーションにより評価する。専門科目の講義・演習・実習では、グループメンバー・患者・医療職者等との関わり方の評価、レポート、プレゼンテーションにより評価する。看護専門職としての職業倫理・ルール・約束・マナーの理解度は、試験・レポート・看護学実習での行動・面接により評価する。</p>
<p>1 知識・リテラシー</p>	<p>(1) 管理栄養士・栄養士に必要な基礎学力を待ち、その専門分野における知識や技能を体系的に理解できる。</p> <p>(2) 管理栄養士・栄養士として必要な情報、およびデータベースの基礎知識とリテラシーを身に付けている。</p>	<p>(1) 専門基礎導入科目の講義と演習を通して、栄養や健康の理解に必要な化学と生物の基礎学力を修得する。この基礎学力とは、計算のみならず、科学的栄養を身に付けることで、身の回りの事象との関連性を論理的に理解することをいう。以上を踏まえて、管理栄養士・栄養士を目指す動機づけにつながる専門基礎科目の講義で「社会・環境と健康」、「人体の構造や機能、疾病の成り立ち」、「食べ物と健康」それぞれの科目群の知識や基礎技能を体系的に理解する。</p> <p>(2) 共通基礎科目の数理情報系分野における「情報・AIリテラシー」を初年次に学修した上で、情報およびデータベースにおける基礎知識とリテラシーを身に付ける。さらに専門関連科目の「Web技術入門」、「画像情報処理」、「情報統計」の講義、演習を通して、Webの原理、画像処理、データの統計処理を修得するとともに、栄養の専門職として必要な情報技術に関する基礎的スキルを身に付ける。</p>
	<p><学修成果の評価方法> 共通基礎教育科目、専門基礎導入科目、専門基礎科目、専門関連科目における試験、小テスト、レポート、演習で評価する。</p>	<p><学修成果の評価方法> 共通基礎教育科目、専門基礎導入科目、専門基礎科目、専門関連科目における試験、小テスト、レポート、演習で評価する。</p>
	<p>(3) 基礎知識・技能を活用し、多面的で多角的な視点から物事を考え、栄養や健康に関する問題を発見し、解決および新たな価値づくりができる。</p>	<p>(3) 専門基礎科目の実験、実習では、多面的で多角的な視点からの食品・生物の性質・特徴および動的変化の観察を通して、栄養・生命現象に関する基礎知識および取扱の基礎的技術を体系的に取得する。学内で行う専門科目の実習において、栄養や健康に関する課題・問題のデータの計測・解析および報告書をまとめる過程で、様々な事象と講義で得た知識を駆使して考えることができる能力を身に付ける。「総合演習」、「π-α資格取得プロジェクト」、「臨床実習」、「卒業研究」の実験的課題解決型教育により、基礎知識・技能を応用して新たな問題を発見し、解決する方法を学ぶ。</p>
<p>2 課題解決力</p>	<p>(4) 栄養や健康に関する知識を体系化し、発見した課題について分析的な問題解決能力、論理的な説明能力を身に付けている。</p>	<p>(4) 専門科目において、管理栄養士・栄養士としての専門性を高めるために必要とされる「基礎栄養学」、「応用栄養学」、「栄養教育論」、「臨床栄養学」、「公衆栄養学」、「給食経営管理論」それぞれの科目群の講義を通して、栄養評価・判定に基づいた企画、実施、評価の総合的なマネジメントを行う能力を学ぶ。さらに、専門基礎科目及び専門科目の実験、演習、実習を通して、PBLサイクリックに基づいた目的設定と計画立案、行動する力、評価して課題を発見する力、報告書の作成や発表を通して、第三者にその内容を論理的かつわかりやすく伝える能力を身に付ける。</p>
<p>管理栄養学科</p>	<p><学修成果の評価方法> 専門基礎科目、専門科目では試験、レポート、実験、演習、実習により評価する。「総合演習」、「π-α資格取得プロジェクト」、「臨床実習」では実施状況を実習記録、レポートにより評価する。「卒業研究」では、課題達成状況やその到達プロセス、プレゼンテーションなどにより多面的に評価する。</p>	<p><学修成果の評価方法> 専門基礎科目、専門科目では試験、レポート、実験、演習、実習により評価する。「総合演習」、「π-α資格取得プロジェクト」、「臨床実習」では実施状況を実習記録、レポートにより評価する。「卒業研究」では、課題達成状況やその到達プロセス、プレゼンテーションなどにより多面的に評価する。</p>
	<p>(5) 管理栄養士・栄養士として活躍するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、また他の専門職との協働力を身に付けている。</p>	<p>(5) 社会人として必要な教養は共通基礎科目全般で学び、特に倫理系科目の「生命倫理」や専門基礎科目の「社会・環境と健康」科目群を通して管理栄養士の社会的な責任に対する自覚を高め、対象者等との信頼関係の確立に必要な職業倫理を学ぶ。さらに、専門科目の「臨床実習」により、社会で役立つ管理栄養士・栄養士として必要な能力を理解するとともに、他者と協働して必要コミュニケーションを取りながら課題を解決する能力を身に付ける。</p>
<p>3 学修に向き合う力、栄養の専門職としての人間性</p>	<p>(6) 主体的な学修・探究活動・実験実習による検証等に取り組み姿勢を身に付けている。また、管理栄養士・栄養士としての社会的責任を理解し、管理栄養士・栄養士としての倫理観を身に付けている。</p>	<p>(6) 将来の管理栄養士・栄養士としての倫理観は共通基礎教育科目の「生命倫理」や専門基礎科目の「栄養生命科学概論」で学ぶとともに、専門科目の「総合演習」、「臨床実習」、「卒業研究」における総合的な学びの中で身に付ける。さらに、研究活動を行う能動的な態度を活かしながら、管理栄養士・栄養士として必要な探究力を身に付ける。</p>

		<p><学修成果の評価方法></p> <p>共通基盤科目では、試験、小テストやレポートで内容の理解度を評価する。専門基盤科目および専門科目は、試験、小テスト、レポート、演習、プレゼンテーション等で評価する。「総合演習」では専攻状況を実習記録、レポートにより評価する。卒業研究では、活動状況（計画立案、遂行状況、コミュニケーション等）や卒業論文のまとめ方、そして研究発表に対して複数の教員で総合的に評価する。</p>
		<p>(1) 臨床工学の理解に必要な物理・化学・生物・数学の基礎、理工学的基礎、医療情報技術とシステム工学の基礎の講義と演習・実習を通して、臨床工学の理解に必要な物理・化学・生物・数学の基礎学力と、医療と関連工学の基礎知識や技能を体系的に理解する。</p>
1	知識・リテラシー	<p>(2) 共通基盤科目数情報系の情報・AIリテラシーを(1)年次に学修した上で、(2)年次の専門基盤科目医療統計学でデータサイエンスにおけるリテラシーを身に付ける。(1)年次の情報処理工学実習において、基礎的なプログラミングを学びながら論理的な思考力を修得する。(1)年次の情報処理工学、(3)年次の医療情報セキュリティにおいて、臨床工学技士として必要な情報技術と情報セキュリティの基礎を身に付ける。</p>
		<p><学修成果の評価方法></p> <p>共通基盤教育科目、専門基盤科目における試験、小テスト、レポート、授業内の演習、プレゼンテーション、討論・質疑応答で評価する。</p>
		<p>(3) 専門科目の臨床実習、臨床工学セミナー、卒業研究などの実践型教育により、多面的で多角的な視点から物事を考え、専門知識・技術を活用して、医療現場における新たな問題を発見・解決することを学ぶ。専門科目の講義・演習・実習により、課題解決のための専門知識・技術を修得する。実習科目では、実習を行い、考察し、報告書をまとめる過程で、講義で得た知識と技術を関連付けて考えることができる能力を身に付ける。さらに、専門科目の臨床実習により、臨床工学技士の役割の把握と期待される行動を学ぶ。</p>
2	課題解決力	<p>(4) 専門科目の講義・実習により、臨床工学に關する専門知識と技術を体系化し、医療現場における幅広い課題についての分析的な問題解決能力を身に付けている。</p>
臨床工学科		<p><学修成果の評価方法></p> <p>専門科目等の講義では試験、小テスト、レポート、授業内の演習、プレゼンテーション、討論・質疑応答で評価して、臨床実習では実習態度や報告書などで評価する。また、卒業研究では活動状況（計画立案、遂行状況、コミュニケーション等）、論文、口頭発表、質疑応答を総合的に評価する。</p>
		<p>(5) 臨床工学技士として活躍するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身に付けている。また、チーム医療の一員として他の医療専門職との協働力を身に付けている。</p>
3	学修に向き合う力、臨床工学技士としての人間性	<p>(6) 粘り強く学修・探究活動・実験等に取り組む姿勢を身に付けている。また、臨床工学技士の社会的責任を理解し、臨床工学技士としての倫理観を身に付けている。</p>
		<p><学修成果の評価方法></p> <p>共通基盤科目では、試験、小テストやレポートで内容の理解度を評価する。総合演習では、学内模擬試験・全国統一模擬試験の成績と国家試験対策演習の取り組み状況、臨床工学技士国家試験出題基準に準拠した判定試験で評価する。</p>

神奈川工科大学 AP (アドミツション・ポリシー)

大学のAP

神奈川工科大学は、考え・行動する人材の育成 - 社会で活躍できる人づくり - を教育目的としています。この教育目的に基づき、「卒業認定・単位授与の方針」(以下「DP」)で定めた知識・リテラシー、課題解決力、学習に向き合う力等を「教育課程編成・実施の方針」(以下「CP」)で定める教育内容・方法等により卒業までに身に付け、工学系・情報系・健康医療系の職業人として社会に貢献しようとする意欲を持つ学生を求めます。

	機械工学科	電気電子情報工学科	応用化学学生物学科	情報工学科	情報ネットワーク工学科
求める人材	本学のAPに該当し、また次の1～3に該当する人および該当しようとする人を求めます。 1 <知識・リテラシー> 機械工学と機械技術の理解に必要な数学と物理の基礎学力を高めようとする意欲がある。 2 <課題解決力> 機械工学と機械技術の基礎知識・技能を活用し発展的に物事を考えようとする意欲がある。 3 <学修に向き合う力> 工学技術者としての人間性 > 粘り強く学修・探究活動・実験等に取り組む意欲のある人。	本学のAPに該当し、また次の1～3に該当する人および該当しようとする人を求めます。 1 <知識・リテラシー> 電気電子情報工学と情報エレクトロニクス技術の理解に必要な数学と物理の基礎学力を高めようとする意欲がある。 2 <課題解決力> 電気電子情報工学と情報エレクトロニクス技術の基礎知識・技能を活用し発展的に物事を考えようとする意欲がある。 3 <学修に向き合う力> 工学技術者としての人間性 > 粘り強く学修・探究活動・実験等に取り組む意欲のある人。	本学のAPに該当し、また次の1～3に該当する人および該当しようとする人を求めます。 1 <知識・リテラシー> 応用化学、生物の基礎学力を高めようとする意欲がある。 2 <課題解決力> 応用化学、生物の基礎知識・技能を活用し発展的に物事を考えようとする意欲がある。 3 <学修に向き合う力> 工学技術者としての人間性 > 粘り強く学修・探究活動・実験等に取り組む意欲のある人。	本学のAPに該当し、また次の1～3に該当する人および該当しようとする人を求めます。 1 <知識・リテラシー> 情報工学の理解に必要な情報と数理の基礎学力を高めようとする意欲がある。 2 <課題解決力> 情報工学の基礎知識・技能を活用し発展的に物事を考えようとする意欲がある。 3 <学修に向き合う力> 情報技術者としての人間性 > 粘り強く学修・探究活動・実験等に取り組む意欲のある人。	本学のAPに該当し、また次の1～3に該当する人および該当しようとする人を求めます。 1 <知識・リテラシー> 情報ネットワークの理解に必要な情報と数理の基礎学力を高めようとする意欲がある。 2 <課題解決力> 情報ネットワークの基礎知識・技能を活用し発展的に物事を考えようとする意欲がある。 3 <学修に向き合う力> 情報技術者としての人間性 > 粘り強く学修・探究活動・実験等に取り組む意欲のある人。
選抜の方法	機械工学を学ぶために必要な高校段階まで身に付けた基礎学力や機械工学を学ぶための多様な学修意欲を把握するため、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施します。	電気電子情報工学を学ぶために必要な高校段階までに身に付けた基礎学力や電気電子情報工学を学修する多様な学修意欲を把握するため、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施します。	応用化学、生物の基礎学力を高めようとする意欲がある。情報工学を学修するために必要な高校段階まで身に付けた基礎学力や情報工学を学修する多様な学修意欲を把握するため、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施します。	情報工学を学修するために必要な高校段階まで身に付けた基礎学力や情報工学を学修する多様な学修意欲を把握するため、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施します。	情報ネットワークを学修するために必要な高校段階までに身に付けた基礎学力や情報ネットワークを学修する多様な学修意欲を把握するため、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施します。

面接や実験の内容、学力試験科目等の詳細は、大学案内、本学ホームページによりお知らせします。

	情報メディア工学科	情報システム工学科	看護学科	管理栄養学科	臨床工学科
求める人材	本学のAPに該当し、また次の1～3に該当する人および該当しようとする人を求めます。 1 <知識・リテラシー> 情報メディアの理解に必要な情報と数理の基礎学力を高めようとする意欲がある。 2 <課題解決力> 情報メディアの基礎知識・技能を活用し発展的に物事を考えようとする意欲がある。 3 <学修に向き合う力> 情報技術者としての人間性 > 粘り強く学修・探究活動・実験等に取り組む意欲のある人。	本学のAPに該当し、また次の1～3に該当する人および該当しようとする人を求めます。 1 <知識・リテラシー> 情報システムの理解に必要な情報と数理の基礎学力を高めようとする意欲がある。 2 <課題解決力> 情報システムの基礎知識・技能を活用し発展的に物事を考えようとする意欲がある。 3 <学修に向き合う力> 情報技術者としての人間性 > 粘り強く学修・探究活動・実験等に取り組む意欲のある人。	本学のAPに該当し、また次の1～3に該当する人および該当しようとする人を求めます。 1 <知識・リテラシー> 看護専門職の基礎知識・技能を高めようとする意欲がある。 2 <課題解決力> 看護専門職の基礎知識・技能を活用し発展的に物事を考えようとする意欲がある。 3 <学修に向き合う力> 看護専門職としての人間性 > 粘り強く学修・探究活動・実験等に取り組む意欲があり、社会からの要請に応えようとする強い意欲を有している。	本学のAPに該当し、また次の1～3に該当する人および該当しようとする人を求めます。 1 <知識・リテラシー> 栄養学の理解に必要な情報と栄養学の基礎学力を高めようとする意欲がある。 2 <課題解決力> 栄養学の基礎知識・技能を活用し発展的に物事を考えようとする意欲がある。 3 <学修に向き合う力> 栄養学の専門職としての人間性 > 粘り強く学修・探究活動・実験等に取り組む意欲のある人。	本学のAPに該当し、また次の1～3に該当する人および該当しようとする人を求めます。 1 <知識・リテラシー> 臨床工学の理解に必要な物理・化学・生物・数学の基礎学力を高めようとする意欲がある。 2 <課題解決力> 臨床工学の基礎知識・技能を活用し発展的に物事を考えようとする意欲がある。 3 <学修に向き合う力> 臨床工学士としての人間性 > 粘り強く学修・探究活動・実験等に取り組む意欲のある人。
選抜の方法	情報メディアを学ぶために必要な高校段階までに身に付けた基礎学力や情報メディアを学修する多様な学修意欲を把握するため、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施します。	情報システムを学ぶために必要な高校段階までに身に付けた基礎学力や情報システムを学修する多様な学修意欲を把握するため、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施します。	看護士をめざす上で必要な高校段階までに身に付けた基礎知識・技能を高めようとする意欲がある。看護専門職としての人間性 > 粘り強く学修・探究活動・実験等に取り組む意欲があり、社会からの要請に応えようとする強い意欲を有している。	管理栄養士・栄養士をめぐり、必要十分な学修意欲を把握するため、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施します。	臨床工学を学ぶために必要な高校段階までに身に付けた基礎学力や臨床工学を学修する多様な学修意欲を把握するため、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施します。

面接や実験の内容、学力試験科目等の詳細は、大学案内、本学ホームページによりお知らせします。

【 3つのポリシー運営委員会ワーキンググループ 】

齋藤 貴 (3つのポリシー運営委員会 主査)
今井 健一郎 (副学長) III 執筆
山本 一雄 (教育開発センター所長) あとがき 執筆
伊藤 勝久 (教育開発センター教授)
高木 章夫 (教育開発センター課長)
平野 多嘉弘 (教育開発センター) 内容精査
小田 貞宏 (カリキュラム・コーディネーター) I、II 執筆

【 学部、学科 DP・CP 執筆者 】 (五十音順 敬称略)

安部 恵一	飯田 泰広	板子 一隆
井家 敦	加藤 俊二	黒川 真毅
兒玉 健	仲亀 誠司	西田 幸典
馬嶋 正隆	松田 康広	三宅 理江子
森 稔	森川 浩	吉留 忠史

(ワーキンググループメンバーははずしています)

神奈川工科大学 3つのポリシー

2024年1月31日 初版 印刷・発行

2025年5月31日 二版 印刷・発行

発行 神奈川工科大学 3つのポリシー運営委員会

〒 243-0292

神奈川県厚木市下荻野 1030 番地

印刷 株式会社 サンテクノ

〒 162-0814

東京都新宿区新小川町 3 丁目 20 番地